

**KITZ**



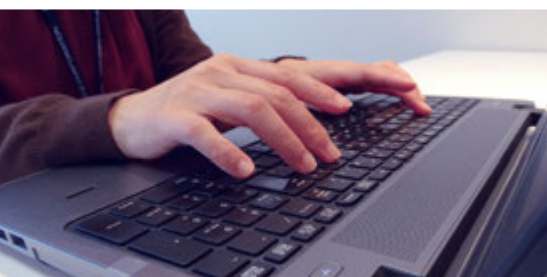
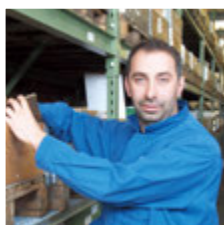
# *Corporate Report 2019*

コーポレイトレポート



## バルブでつなぐ先は、未来。

どこでも安心して水を使うことができる。石油・ガスが絶え間なく供給される。クリーンな環境で暮らすことができる。キッツグループは、水や空気、石油、ガスなどの流体をコントロールする「バルブ」の製造・販売を通して、私たちの暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支え、今日のゆたかな社会に貢献しています。さらに、流体制御のプロフェッショナルとして、お客様の期待を超える商品・サービスでそのフィールドと可能性を世界に広げ、明日のゆたかな社会を創造していきたいと考えています。





# Contents

## Page 03

### キッツグループの価値創造プロセス

- 05 キッツグループの成長の軌跡
- 07 数字で見るキッツグループ

## Page 09

### ステークホルダーの皆様へ

- 09 社長メッセージ
- 15 財務担当役員メッセージ



## Page 35

### キッツグループのESG

- 36 ESGへの取り組み
- 37 ESG担当役員メッセージ
- 39 経営体制
- 42 コーポレート・ガバナンス
- 45 内部統制／コンプライアンス
- 47 社外取締役メッセージ
- 49 ステークホルダーとの対話
- 50 環境活動
- 53 人財を支える取り組み
- 55 多様な人財がキッツグループを支える
- 57 社会貢献活動
- 58 TOPICS

#### 編集方針

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、キッツグループの持続的な成長に向けた取り組みをお伝えするため、コーポレートレポート2019を発行しました。国際統合報告評議会(IIRC)が提示するフレームワークを参考にし、短・中・長期の価値創造に関する報告を中心に構成しています。

#### 見直しに関するご注意

このレポートに記載されている将来の計画数値、施策など見直しに関する内容は、現在入手可能な情報に基づき当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績等は、様々な要因により見直し等と異なる可能性があります。



## Page 17

### 事業の概要と戦略

- 18 Pick up
- 19 バルブ事業
  - 19 バルブ事業統括本部長メッセージ
- 21 KITZ Group + Water
- 23 KITZ Group + Energy
- 25 高付加価値を生み出す研究開発体制
- 27 高品質を実現する生産体制
- 29 広範で強固な販売ネットワーク
- 31 バルブ業界のリーディングカンパニーとして
- 32 信頼のブランド
- 33 伸銅品事業

## Page 59

### データ編

- 59 主要財務データ
- 65 グループネットワーク
- 69 会社概要／株式情報
- 70 INFORMATION

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キッツグループのESG

データ編

# キッツグループの価値創造プロセス

キッツは、健全で透明性の高い経営のもと、グループの強みを活かしたバルブの製造・販売を通して、持続的な企業価値の向上を目指しています。それにより、株主、投資家の皆様をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会に対して様々な形で寄与し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいりたいと考えています。

## キッツグループの強み

## 価値創造プロセス



持続的成長を実現する  
経営戦略

P9~16

流体制御のプロとして  
価値を創出する  
バルブ事業

P19~32

**KITZ**

## キッツ宣言

*KITZ' Statement of Corporate Mission*

キッツは、  
創造的かつ質の高い商品・サービスで  
企業価値の持続的な向上を目指し、  
ゆたかな社会づくりに貢献します。

*To contribute to the global prosperity,  
KITZ is dedicated to continually enriching its corporate value  
by offering originality and quality  
in all products and services.*

## 行動指針

*Action Guide*

### Do it **KITZ** Way

- Do it True (誠実・真実)
- Do it Now (スピード・タイムリー)
- Do it New (創造力・チャレンジ)

### 創出価値

活力ある  
企業風土を醸成する  
人財育成

P53~56

- 水やエネルギーなどの  
安定供給を支え、  
安心して暮らせる環境を創造

- 顧客・サプライヤーの信頼、  
地域社会との共生

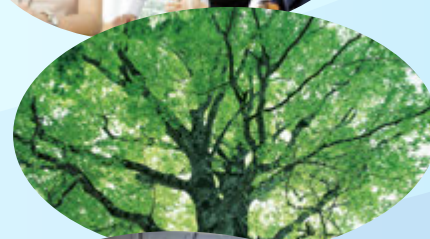
- グローバル人財の育成と  
高いモチベーションを保てる  
企業風土の醸成

- 環境負荷を抑えた事業活動と  
環境マネジメント体制の強化

- 持続的な株主価値の向上

健全で透明性の高い  
経営を実現する  
コーポレート・ガバナンス

P39~49

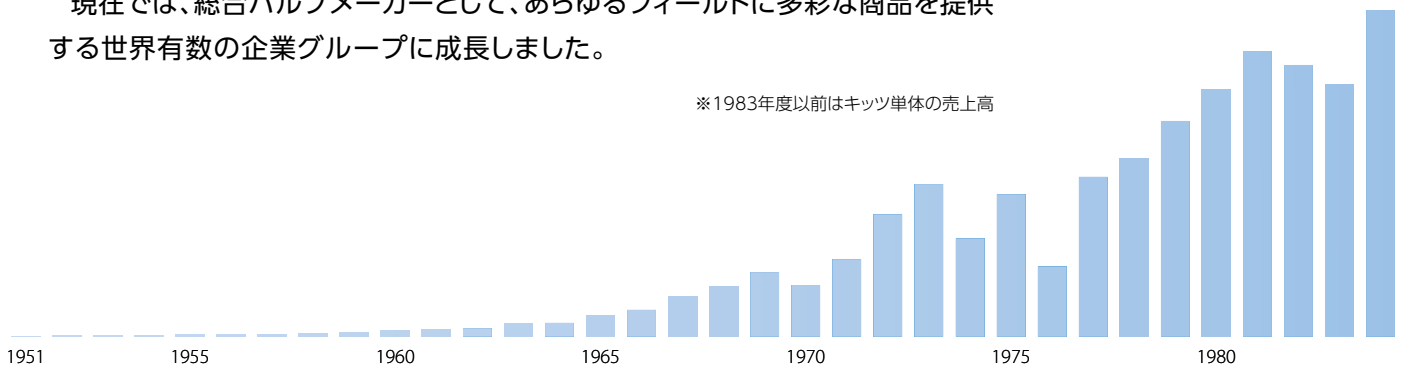


# キッツグループの成長の軌跡

1951年、日本が敗戦の混乱期から高度経済成長時代へと移りつつある中、北澤製作所(現キッツ)が創業しました。創業者 北澤利男(1917~1997年)の理念により、素材からの一貫生産を基本に、鑄造から加工・組立・検査・出荷など全ての工程を社内で行い、さらに、きめ細かい販売サービスやアフターフォローをお客様に提供する体制を築いてまいりました。こうした「より良い品質」へのこだわりが今日まで脈々と受け継がれ、私たちキッツグループの源流となっています。

現在では、総合バルブメーカーとして、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する世界有数の企業グループに成長しました。

※1983年度以前はキッツ単体の売上高



初代社長  
北澤 利男  
(在任期間:1951~1985年)



2代目社長  
清水 雄輔  
(在任期間:1985~2001年)

## 創業 — 生産・販売体制を構築

- 1951年
  - 北澤利男が株式会社北澤製作所を創業
  - 長坂工場が完成 銅製バルブの製造・販売を開始
- 1952年
  - 全国代理店会を組織し 全国市場への流通体制を確立
- 1959年
  - 黄銅棒の生産を開始

## 品種を拡大、総合バルブメーカーに

- 1962年
  - 社名を株式会社北澤バルブに変更
- 1967年
  - ダクタイル鑄鉄製バルブ、ステンレス鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1968年
  - バタフライバルブの製造・販売を開始
- 1969年
  - 鑄鉄製バルブの製造・販売を開始
- 1974年
  - 鑄鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1975年
  - 社名を株式会社北沢バルブに変更
- 1977年
  - 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1978年
  - KITZが商標登録となる

## 信頼のブランド「KITZ」を確立

- 1985年
  - 清水雄輔が社長に就任
- 1989年
  - 日本企業で最初に長坂工場と伊那工場が「ISO9001」の認証を取得
- 1991年
  - スペインのボールバルブメーカーISO社(現KITZ Corporation of Europe, S.A.)がキッツグループに入る

## History



1951年  
創業当時の長坂工場。社員12人、企業というより町工場というにふさわしい門出であった。



1962年  
我が国で初めて黄銅鍛造バルブFH、FSの製造・販売を開始。



1980年  
青銅製バルブのハンドルデザインに「菊ハンドル」を採用(P32 Focusをご覧ください)。

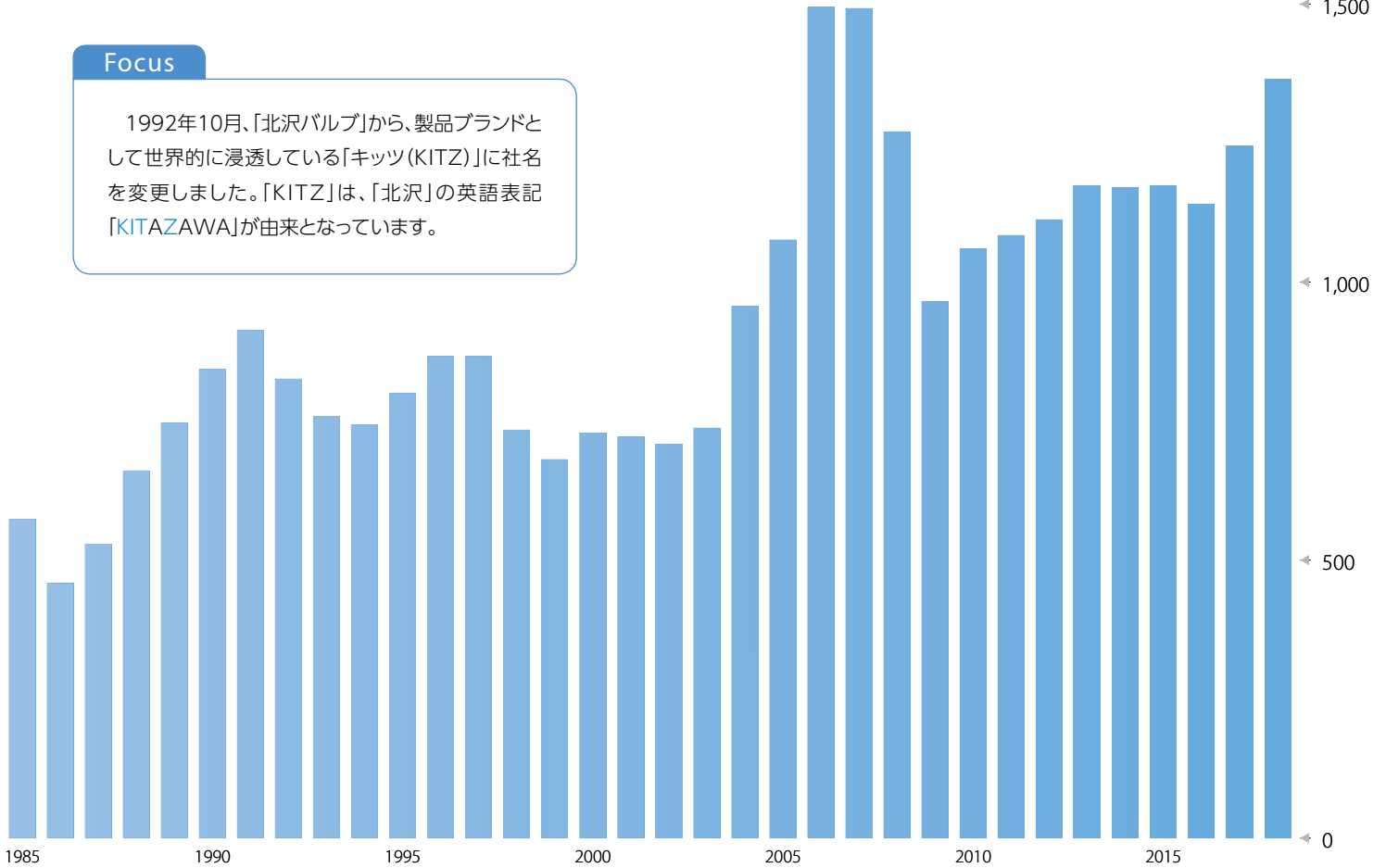


1984年  
東京証券取引所市場第一部に上場。

売上高  
(億円)  
← 1,500

Focus

1992年10月、「北沢バルブ」から、製品ブランドとして世界的に浸透している「キッツ(KITZ)」に社名を変更しました。「KITZ」は、「北沢」の英語表記「KITAZAWA」が由来となっています。



3代目社長  
小林 公雄  
(在任期間:2001~2008年)



4代目社長  
堀田 康之  
(在任期間:2008年~)

選択と集中を加速、グローバル化を推進

1992年  
●社名を株式会社キッツに変更、千葉・幕張新都心に本社を移転

1995年  
●水道用バルブメーカー株式会社清水合金製作所がキッツグループに入る

2001年  
●小林公雄が社長に就任  
●旧ベンカングループから半導体関連事業を譲り受ける

2002年  
●保有資産の減損と不振事業の再構築を実行

2004年  
●伸銅品事業及びMF(マイクロフィルター)事業を分社

2008年  
●堀田康之が社長に就任

2009年  
●ドイツのボールバルブメーカー Perrin GmbHがキッツグループに入る

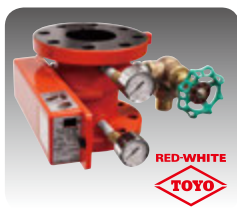
2015年  
●インドの工業用バルブメーカー Micro Pneumatics Pvt. Ltd. がキッツグループに入る

●ブラジルの工業用ボールバルブメーカー Metalúrgica Golden Art's Ltda.がキッツグループに入る

2018年  
●韓国の工業用バタフライバルブメーカー Cephaz Pipelines Corp.がキッツグループに入る



1999年  
環境配慮型鉛レス快削性黄銅合金・青銅合金「KEEPALLOY(キーパロイ)」を発表。



2004年  
東洋バルブ株式会社がキッツグループに入る。



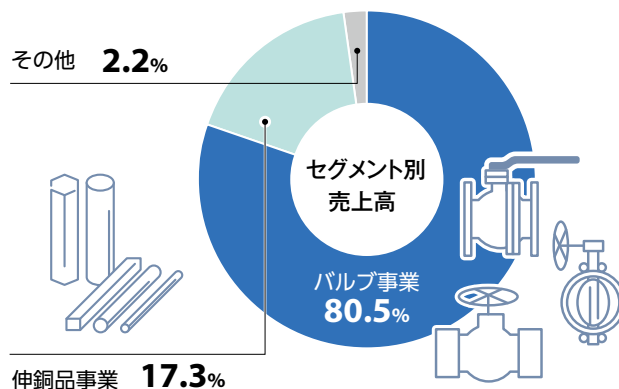
# 数字で見るキッツグループ (2019年3月31日現在)

## 売上高

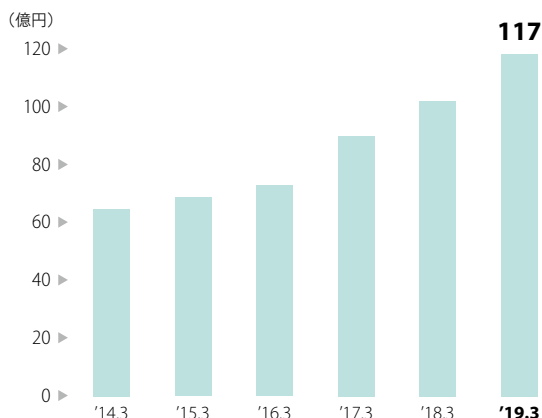
# 1,366 億円

2019年3月期の売上高構成比は、バルブ事業80.5%、伸銅品事業17.3%、その他2.2%となっています。これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとしてさらなる成長を目指します。

※詳細はP.9「社長メッセージ」をご覧ください。



## 営業利益



# 117 億円

既存製品に加え、お客様が必要とする製品をいち早く開発し市場に投入するなど、売上の拡大を図るとともに、グローバル調達、内製化、生産性向上などによる製造コスト削減に取り組み、持続的な利益成長を目指しています。

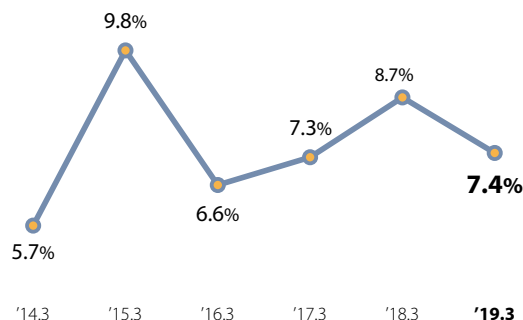
※詳細はP.9「社長メッセージ」をご覧ください。

## ROE

# 7.4%

持続的な利益成長を目指す一方、2018年8月から9月にかけて2百万株、2019年3月に10万2百株の自己株式の取得を行うなど、ROEのさらなる向上に取り組んでいます。なお、2019年3月期は、のれん等の減損損失の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益が減益となったことに伴い、ROEは7.4%となりました。

※詳細はP.15「財務担当役員メッセージ」をご覧ください。



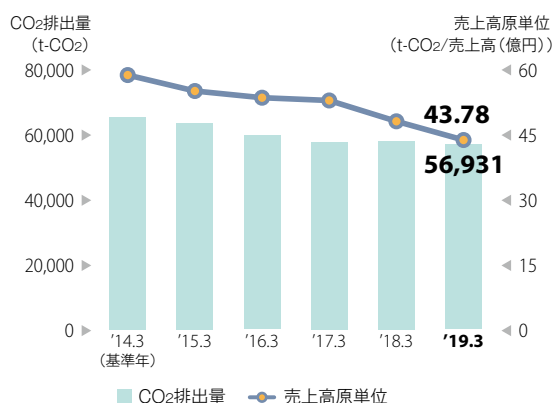


## CO<sub>2</sub>排出量

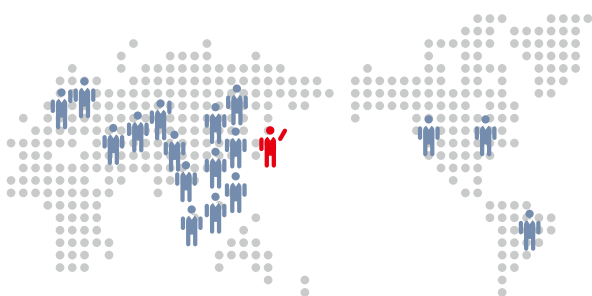
# 56,931 t-CO<sub>2</sub>

キッツグループは、事業活動から排出されるCO<sub>2</sub>低減の目標値を設定し、地球温暖化防止に向けて取り組んでいます。

※1. CO<sub>2</sub>排出量・売上高原単位は、キッツ及び国内グループ会社の数値を表示しています。  
 ※2. 詳細はP.50「環境活動」をご覧ください。



## グローバルネットワーク



# 18カ国

キッツグループの初の海外拠点として、1984年にアメリカに販売会社 KITZ Corporation of America を設立しました。現在では、世界18カ国に生産と販売・マーケティングの拠点を置き、グローバルなネットワークを構築しています。

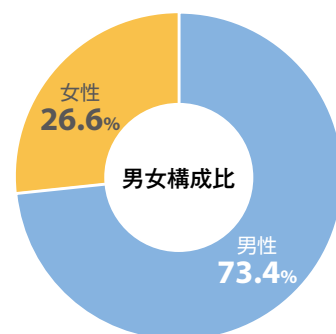
※詳細はP.29「広範で強固な販売ネットワーク」をご覧ください。

## 連結社員数

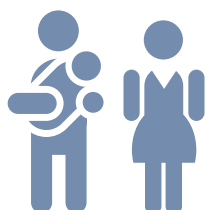
# 4,945人

キッツグループでは、性別や年齢、国籍にかかわらず、多様な人財が活躍しています。企業の規模拡大に伴い、社員数も増加しています。

※詳細はP.53「人財を支える取り組み」をご覧ください。



## 育児休業取得延べ人数(キッツ単体累計)



多くの社員が育児休業を取得し、職場復帰を果たしています。また、育児のための短時間勤務や有給休暇の時間単位での取得など、社員一人ひとりが働きやすい環境づくりを進めています。

※1. 1995年以降の育児休業取得者の延べ人数を表示しています。  
 ※2. 詳細はP.53「人財を支える取り組み」をご覧ください。

# 158人

# ステークホルダーの皆様へ

## 社長メッセージ



グループの総力を結集して  
企業価値のさらなる向上を目指します。

堀田 康之

代表取締役社長

### 「コーポレートレポート2019」の発行にあたり

キッツは、2016年より統合報告書(コーポレートレポート)を発行しています。財務情報、非財務情報を包括的・体系的に統合し、キッツグループの経営戦略、成長性などをご理解いただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。

作成にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)が提示す

るフレームワークを参考に、キッツ独自のストーリーにより、短期・中期・長期でのキッツグループの価値創造に関する内容で構成しています。

キッツは、株主や投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとの対話のためのツールとして本レポートを活用し、さらなる企業価値の向上に努めてまいりたいと考えています。また、経営の透明性の確保を図るとも

### キッツグループの1年

## TOPICS



に、社会的課題解決への取り組みをご理解いただけるよう、本レポートのみならず、ウェブサイトや有価証券報告書、株主通信及び環境報告ダイジェストなどのツールを通じて適時・適正な情報の開示を行ってまいります。

### キッツグループの目指す姿

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により持続的に企業価値の向上を図ることを企業理念に掲げ、行動指針(Do it KITZ Way)として、Do it True(誠実・真実)、Do it Now(スピード・タイムリー)、Do it New(創造力・チャレンジ)を定めています。これらを体現するために社員一人ひとりが理解し、実践すべきことは、まず、コンプライアンスをさらに徹底し、内部統制や法令遵守の体制を強化し、より信頼される企業となることです。そして、世界的な視野を持ち、グローバルレベルの知識、技能、教養を身につけた人財を育成していくこと、グローバル競争で勝ち残るため、権限委譲を進め、責任をより明確にし、スピーディーに意思決定をすることであると考えています。さらに、リードタイムの短縮、歩留まり改善などの実行により、生産性を極限まで追求すること、また、お客様が要求する品質に迅速に応え、製品のみならず、営業、サービスなど、あ

らゆる活動の品質を向上させることであると考えています。キッツは、これらをベースに企業活動を実践してまいります。

### 当期(2018年度)の連結業績の概況

当期の連結売上高は、前期比120億71百万円増の1,366億37百万円と大幅な増収となりました。バルブ事業は、前期比118億6百万円増の1,099億69百万円となり、バルブ事業セグメント単独で初めて1,000億円を超えました。国内市場向け、海外市場向けともに前期に比べて売上を伸ばしました。第4四半期に減速したものの、半導体製造設備向けが売上の増加に貢献しました。また、伸銅品事業も1億7百万円の増収となり、その他(サービス関連の事業)も1億57百万円の増収となりました。

損益面では、バルブ事業で、部品・副資材及び物流費用の上昇や販売費及び一般管理費の増加はありましたが、増収に伴う増益と製造コストの削減に加え、価格改定効果もあり、営業利益は21億40百万円増加し過去最高となりました。一方、伸銅品事業においては、原材料相場の変動の影響により、4億12百万円の減益となったものの、その他(サービス関連の事業)は、宿泊客の増加とコスト削減効果によりホテル事業の業績が改善し、黒字に転換しました。



これらの結果、連結営業利益は前期比15億95百万円増の117億13百万円となり、2008年3月期の116億15百万円を超え、過去最高益を更新しました。経常利益も前期比21億50百万円増の118億83百万円となり、2007年3月期の106億52百万円を超え、こちらも過去最高となりました。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益については、のれん等の減損損失(24億83百万円)を計上したことにより、前期比8億92百万円減の56億25百万円となりました。

### 第3期中期経営計画の総括

第3期中期経営計画(2016~2018年度)の売上高や利益の数値目標に対しては、前倒して達成することができました。最終年度の売上高は、計画を166億37百万円(13.9%)、営業利益についても計画を17億13百万円(17.1%)、それぞれ上回りました。

第3期中期経営計画では、キッツグループの強みを活かせる「建築設備」「石油化学・一般化学」「グリーンエネルギー(水素・LNG)」を重点市場分野と定め、市場調査から開発、市場投入までを一気通貫で迅速に行う組織として、プロダクトマネジメントセンターを設置しました。重点市場別のマーケティング及び製品開発が進む体制が構築されつつあり、今後もお客様のニーズに合致した新製品の開発をさらに力強く進めてまいります。

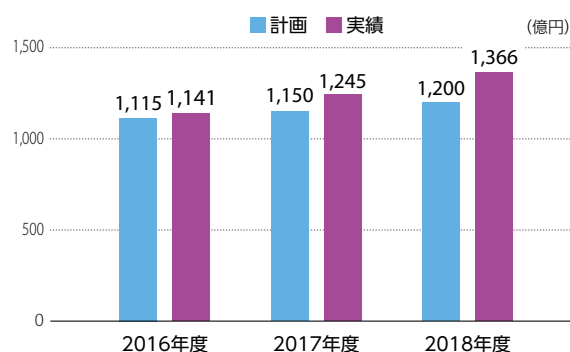
### ●さらなる成長に向けた投資を実行

また、第3期中期経営計画期間中には、効率化や省人化、事業の成長に向けた投資を積極的に行いました。3年をかけて取り組んできた新基幹業務システムについては、2019年5月より稼働を開始しました。開発部門においては、設計や開発の業務効率の向上と納期短縮を目的としたPLM(プロダクト・ライフサイクル・マネジメント)システムが本格的に稼働を開始しており、これらによる業務効率の向上や情報処理の高度化も今後の成長に大きく寄与するものと考えています。伸銅品事業においては、老朽化した機械設備の更新及びラインの統廃合を決定し、大規模な投資を実施しました。2019年の夏には本格稼働する見込みであり、生産性及び利益率改善が実現するものと考えています。

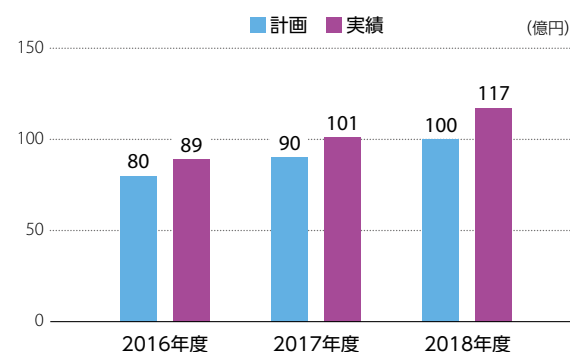
### 第3期中期経営計画期間の売上高と営業利益

グラフ及び表の計画値は2016年5月に策定した第3期中期経営計画策定時の数値

#### ○売上高



#### ○営業利益



#### ○セグメント別売上高

	2018年度計画	2018年度実績
バルブ事業	100,000	109,969
伸銅品事業	16,500	23,643
その他	3,500	3,025
合計	120,000	136,637

#### ○セグメント別営業利益

	2018年度計画	2018年度実績
バルブ事業	13,150	14,938
伸銅品事業	100	287
その他	150	90
調整額	△3,400	△3,602
合計	10,000	11,713



## ●成長への布石

さらに、韓国のバタフライバルブメーカーCephas Pipelines Corp.及び韓国の中空糸膜メーカーFilcore Co., Ltd.を買収した他、マレーシア、ベトナム、香港及び韓国に現地販売法人を設立しました。旺盛な半導体市場に対応するため、半導体事業を担う株式会社キッツエスシーの新田SC工場にシステム製品専用工場を新設するとともに、同社の中国生産法人に第2工場を建設しました。現在は、フィルター事業を担当する株式会社キッツマイクロフィルターの新工場の建設が進んでいます。

一方、Cephas Pipelines Corp.ののれん等については、外部環境の急激な変化があったとはいえ、買収した年度のうちに減損損失を計上せざるを得ない状況に至りました。本件については真摯に受け止め、今後の買収監査及びPMI(買収後の統合)に活かしてまいりたいと考えています。



## 2030年を見据えて

第4期中期経営計画を策定するにあたり、2030年に目指す姿を明確にしました。定量的には、売上高は年平均成長率4%、EPS(1株当たり当期純利益)は年平均成長率7%、経営の効率性を示すROE(自己資本当期純利益率)については、12%を掲げています。第4期中期経営計画は、これに向けた成長へのステップにしたいと考えています。

## キッツグループが目指す姿

### 1. 2030年に向けたビジョン

- ワールドクラスのテクノロジー、エンジニアリングをお客様に提供し、エネルギーシフトや循環型社会への対応を通じて、環境負荷の低減に貢献する。
- ICT活用により、ビジネスモデルの変革と製品開発力の強化を図り、成長市場において強固な地位を築く。
- 各国地域経済の成長とともに、グローバルな社会インフラの発展を支える。
- 公正かつ透明なルールの下、社員が生活をより良くし、より安全に、より健康に働くことができる企業を目指す。

### 2. マネジメントのあり方

- 経営管理情報をグローバルに同期させ、進化したグループ連結経営を行う。
- 人材・資産・資金をグループ全体最適の観点から配分・活用する。
- グローバルでサプライチェーンの「見える化」を図り、シンプルな意思決定の仕組みを経営の中に取り入れ、省力化投資を行い、労働生産性向上を図る。

### 3. 定量目標

- 2030年に向けた定量目標としては以下を掲げ、バルブ事業において「Global Strong No.2を目指す」ことを中長期の目標とする。

成長性	収益性	効率性
売上高 年平均成長率 <b>4%</b>	EPS 年平均成長率 <b>7%</b>	ROE <b>12%</b>

## 第4期中期経営計画(2019~2021年度)

バルブ事業では、2030年に向けて「Global Strong No.2 を目指す」をスローガンに掲げています。バルブメーカーのワールドランキング(売上高・当社推定)では、現在、キッツグループを含む4社がほぼ差のない3位グループにいますが、それを確固たる2位に引き上げようというものです。その実現に向けて、戦略的な取り組みを実践していきます。

国内市場においては、総合バルブメーカーとして幅広いラインナップをそろえ、あらゆる市場でご採用いただいておりますが、製品ごとに見ると、必ずしも全てがトップであるわけではなく、シェア拡大の余地はまだあると考えています。第4期中期経営計画では、主要弁種(バルブの種類)及び材質でシェアNo.1になるべく、お客様の真のニーズに合致した、キッツグループにしか提供できない絶対的な価値やソリューションをお届けしていきたいと思っております。

また、海外市場においては、アジア地域のハイエンド(高価格・高品質)市場で一定のシェアを持っていますが、ミドルゾーン(中価格)市場には本格的に参入できていません。最もボリュームがあり、近い将来ハイエンド市場を脅かすこと

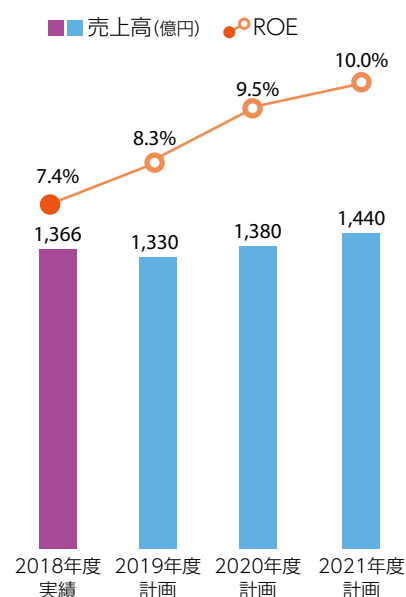
になるとされるミドルゾーン市場に「風穴」を開けたいと思っています。それを実現するために、2019年4月に、取締役副社長執行役員を室長とする「アジア汎用弁戦略室」を新たに設置しました。また、プラント向けでは、MROビジネス(設備の保守・修理、稼働に必要な工具や消耗品などを提供するビジネス)やメンテナンスサービス体制を強化していきます。

伸銅品事業においては、新設備の稼働による大幅な生産性向上と働きやすい環境の整備及び特色ある材料開発によるマージンの拡大を目指します。その他(サービス関連の事業)では、ホテル事業においては、全てのお客様に「感動」と「居心地の良い時間」を提供し、安定的な収益構造を確立してまいります。

マネジメントにおいては、新基幹業務システムを活用してグループ全体の「見える化」を進める一方、グローバル資金管理の充実・強化を図ってまいります。また、既存業務のボトルネックを解消する投資を積極的に行なってまいりたいと考えています。人材の育成についても、グループ人事の強化によりグループ経営幹部の育成に努める他、引き続き、ダイバーシティを推進してまいります。

### 第4期中期経営計画(2019~2021年度)の数値目標

	2018年度実績	2019年度計画	2020年度計画	2021年度計画
売上高	▶ 1,366億円	▶ 1,330億円	▶ 1,380億円	▶ 1,440億円
営業利益	▶ 117億円	▶ 100億円	▶ 125億円	▶ 135億円
EBITDA	▶ 168億円	▶ 167億円	▶ 200億円	▶ 215億円
ROE	▶ 7.4%	▶ 8.3%	▶ 9.5%	▶ 10.0%
EPS	▶ 58.50円	▶ 68.49円	▶ 85円	▶ 95円
<b>○セグメント別売上高</b>				
バルブ事業	▶ 1,099億円	▶ 1,060億円	▶ 1,100億円	▶ 1,150億円
伸銅品事業	▶ 236億円	▶ 240億円	▶ 250億円	▶ 260億円
その他	▶ 30億円	▶ 30億円	▶ 30億円	▶ 30億円
<b>○セグメント別営業利益</b>				
バルブ事業	▶ 149億円	▶ 135億円	▶ 155億円	▶ 163億円
伸銅品事業	▶ 2億円	▶ 5億円	▶ 10億円	▶ 12億円
その他	▶ 0.9億円	▶ 0.5億円	▶ 0.5億円	▶ 0.5億円







最適資本構成の視点をベースに  
積極的な投資と株主還元の  
充実の両立を図ります。

葛城 健志

執行役員 管理本部副本部長

### 第3期中期経営計画の総括

#### ●キャッシュ・フロー創出力の向上と積極的投資

第3期中期経営計画期間は、売上高・営業利益とも計画を前倒しで達成し、2018年度には過去最高となる117億円の連結営業利益を計上しました。3年間の累計営業キャッシュ・フローは299億円のプラスとなり、キャッシュ・フロー創出力は大きく向上したと言えます。

一方で、中長期の成長を睨み、積極的な投資を実施しました。アセアンに販売・マーケティング拠点を開設した他、韓国メーカー2社を買収しました。また、伸銅品事業では、生産性の向上を目指し、大規模な設備更新投資を実施しています。さらに、2019年5月から新基幹業務システムの運用を開始しており、グローバルベースでのタイムリーな情報把握、業務効率化等の導入効果を見込んでいます。

#### ●財務体質の健全化と資金効率の向上

財務面では、バランスシート健全化のため、2016年度に本社ビルの信託受益権設定譲渡（流動化）及び特別損失の計上を行った他、政策保有株式についても継続的に見直しを行い、売却を実施しています。また、国内で運用していたCMS<sup>\*1</sup>に加え、グローバルCMS導入によるグループ内資金循環の枠組みを構築しました。

資金面では、旺盛な設備投資等の資金需要に対応する

ため、2018年3月、第4回無担保公募社債100億円（償還期限7年）を発行しましたが、自己資本比率は55%以上という高い水準を維持しています。

### 第4期中期経営計画の取り組み

この度、2030年に向けた中長期の数値目標を定め、ROEについては2021年度の目標を10%とし、長期目標を12%としました。

目標達成に向け、バルブ事業においては、国内市場での競争力拡大及び海外市場での売上・利益拡大並びにコストダウン等に取り組み、営業利益とEBITDA（償却前営業利益）の増大を図るとともに、新技術獲得、生産合理化、環境対応及び海外を中心とした増産投資等、引き続き積極的な設備投資を行ってまいります。また、生産部門を中心に棚卸資産の削減、回転率及びリードタイムの向上により、CCC<sup>\*2</sup>の向上に取り組んでいます。その他、グループ資金のさらなる集中化と効率化を目指し、国内グループ会社との資金プーリングシステムを開始しました。グローバルCMSを活用し、グループ会社資金の「見える化」を進め、資本効率の向上を図ってまいります。

キッツグループは、世界各地に複合機能を備えた拠点を展開する他、積極的な海外M&Aも推進しており、海外グループ会社の経営管理強化が重要な課題です。今後は、経



営状況・課題のさらなる「見える化」を進め、連結財務体質の強化と安定性確保、将来リスクの把握と対応、資金を通じたグループガバナンスの強化などに取り組んでまいります。

### 投資リターンと機動的な資金調達力の確保

中長期のROE目標の達成や株主還元の充実を図るためには、通常の設備投資とともに、時には戦略的な投資が求められます。また、経営環境激変時のリスクにも備えつつ、持続的な成長を図るために、ROE等投資リターンに資金調達力をも加味した最適資本構成が必要と考えています。具体的には、ROE等の資本効率目標を重視するとともに、資産構成に応じたリスク度を加味した、事業リスク対応力指標としての自己資本比率の目標を55～60%程度とします。

機動的な資金調達を実行できるよう、取引銀行各行と良好な関係を維持する一方、公募社債による金融市場からの資金調達にも対応できるよう、社債格付A格の確保に努めます。公募社債については、格付投資情報センター(R&I)からA-格付を取得しており、総額200億円の新規社債発行枠の登録を行っています。また、長期発行体格付の信頼性をさらに高めるため、日本格付研究所(JCR)からA格付を取得しています。

また、手元資金を圧縮しつつ、米中貿易摩擦による世界経済の不透明感の増大や突発的な資金需要の発生に備えるため、取引銀行各行との間で総額100億円(前期比60億円増)の短期借入金の特定融資枠(コミットメントライン)契約を締結しています。

### 株主還元の充実

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題と位置付けており、当期は過去最高の1株当たり20円の配当を実施させていただきました。

また、2016～2018年度にかけて、取締役会決議に基づき1,163万98百株(約92億円)の自己株式を取得しており、3か年の総還元性向は82%となりました。なお、2018年3月に1,000万株の自己株式を消却しました。

第4期中期経営計画策定にあたり、配当金による利益還元をさらに重視し、配当性向を10%引き上げ、35%前後を望ましい水準とすることにいたしました。今後も、株主の皆様への利益還元を充実させていくとともに、投下資本効率の向上にも中長期視点で取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

※1 CMS: キャッシュ・マネジメント・システム  
 ※2 CCC: キャッシュ・コンバージョン・サイクル

## 第4期中期経営計画 財務戦略・資本政策

2019～2021年度累計 営業キャッシュ・フロー  
450億円

#### 設備投資

3年間で約240億円を計画

- ・新技術(自動化、IoT、AI)、生産合理化、環境対応
- ・増産投資(特に海外)
- ・伸銅品事業 設備更新

#### 株主還元

配当性向 25%→35%に

- ※自己株式の取得は、投資資金・株式市場の状況等を勘案し、適宜検討

#### M&A・借入返済

機動的なM&A

- ・エリア戦略
- ・製品、技術戦略

有利子負債の返済

### 最適資本構成の確保と機動的な資金調達

ROE目標 : 2021年度10% 2030年度12%  
 リスク対応: 自己資本比率目標 55～60%程度(2019年3月: 57.4%)  
 コミットメントライン契約 100億円(前年度比+60億円)  
 社債格付 : A格維持(現状格付 R&I: A-(2019年7月) JCR:A(2019年6月))  
 社債発行予備格付 R&I: A-(200億円 2018年10月～2020年10月)

# 事業の概要と戦略



# Pick up

キッツグループは、環境に配慮した商品の開発など、新たな可能性に挑戦しています。グループのシナジーを最大限に発揮し、さらなる成長を目指してまいります。

## キッツマイクロフィルター 「ポリフィックス」の成長と新工場建設

フィルター事業を担う株式会社キッツマイクロフィルターは、独自に培った中空糸膜製造技術、アセンブリ技術及び各種評価技術を核に、家庭用浄水器から工業用フィルターまで、気体・流体を問わず幅広い分野に中空糸膜を使用した各種ろ過用機器を提供しています。特に、工業用フィルター「ポリフィックス」の売上が順調に伸びており、市場環境としても、IoT、AI、ロボットに代表される半導体関連市場は年5%の成長が見込まれるなど、さらなる需要の拡大が期待されます。また、医療・ヘルスケア関連分野を今後の重点市場と定め、商品開発及び市場開拓を進めています。

半導体関連市場の拡大を受け、「ポリフィックス」を増産していますが、現有の設備能力では限界が近づいてきたこと、また、医療機器の生産環境として、クリーンルームの新設が必要であることから、新工場を建設することを決定しました。すでに工事に着工しており、2019年9月の稼働開始を目指しています。

新工場の稼働により、生産ラインの専用化・整流化、生産能力の大幅な向上が期待でき、お客様の要望に迅速に対応することが可能となります。



工業用フィルター「ポリフィックス」



建設工事が進む新工場

## 清水合金製作所 浄水装置「アクアレスキュー」で被災地支援

琵琶湖のほとり、滋賀県彦根市に本社・工場を構える株式会社清水合金製作所は、1947年に創業した上下水道用バルブ・浄水装置の専門メーカーです。上水道の送水管・配水管で使用されるバルブについては、台数ベースで国内ナンバーワンのシェアを誇ります\*。1995年にキッツグループに加わり、水事業の一翼を担っています。

2018年6月下旬から7月上旬にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生しました。清水合金製作所は、2016年の熊本地震に続き、浄水装置「アクアレスキュー」を被災地に複数台設置し、給水支援活動を行いました。

「アクアレスキュー」は、沢の水から河川水、井戸水に至るあらゆる原水に対応するコンパクトな浄水装置です。屋外への設置も可能であり、また、避難場所となる体育館などの小型発電機から受電できます。さらに、完全自動制御であるため、設置・調整後は無人運転となります。小規模集落の専用水道のために開発された商品ですが、今後も、仮設設備、災害時の緊急設備として、様々な場面で皆様のお役に立ちたいと考えています。

\*公益社団法人日本水道協会 水道用品検査実績



被災地に設置されたアクアレスキュー



# バルブ事業

## バルブ事業統括本部長メッセージ



水やエネルギーなどの安定供給を支え、  
安心して暮らせる環境を創造します。

河野 誠

取締役常務執行役員 バルブ事業統括本部長

### バルブとは

バルブは、配管内の流体(水・空気・石油・ガスなど)を流したり、止めたり、流量をコントロールする機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさかのぼることができます。1800年代半ばに紡績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製のバルブが初めて使われました。明治になり、水道事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調など、私たちの身近な生活フィールドから、石油、化学、医薬品、食品など、あらゆる産業分野の生産プロセスに至る様々なパイプに接続され、重要な役割を担っています。私たちは日常生活の中でその存在を意識することはあまりありませんが、バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支えています。



### 総合バルブメーカーとして

キッツグループが世界有数の企業グループに成長することができたのは、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する総合バルブメーカーとしての地位を築いてきたことにあります。多くのメーカーが限られた市場・分野に特化したり、材質や形状を絞って商品を製造・販売したりする中で、キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼などの様々な材質や形状のラインナップを有し、私たちの生活空間から産業分野まで、グローバルに商品を提供しています。それらは、素材からの一貫生産体制により製造されており、「KITZ」は、信頼のブランドとしての地位を確立しています。

### 2018年度の業績及び2019年度の事業計画

2018年度の国内市場は、建築設備向けが堅調に推移したことに加え、製造業全般において設備投資が活発に行われたことにより工業市場向けが好転し売上が伸長しました。2年続けて実施した価格改定も寄与しました。海外市場においても、代理店の在庫調整が終わり、売上が回復しました。第4四半期からは調整局面となりましたが、最も業績に貢献したのは半導体製造設備向けです。データセンターやサーバー、スマートフォン向けの需要が好調に推移し、投資が継続されたことが要因として挙げられます。

損益面では、増収や価格改定効果に加え、コスト削減の効果が大きかったと考えています。従来のコスト削減活動



に加え、製造設備の更新やロボットの導入など、生産性の向上につながる設備投資を積極的に実施しました。

これらの結果、バルブ事業セグメントの売上高は前期比12.0%増の1,099億69百万円となり、初めて1,000億円を超え、営業利益も前期比16.7%増の149億38百万円となり、ともに過去最高を更新しました。

2019年度は、第4期中期経営計画の初年度となります。国内建築設備向けや工業市場向けについては概ね堅調に推移することが見込まれる一方、半導体製造設備向けについてはしばらく踊り場が継続することが見込まれ、また、海外市場向けについては、米中貿易摩擦など海外経済を巡る不確定要素もあり、不透明感は払拭できません。

このような環境の下、国内市場においては、国内の全ての主要弁種(バルブの種類)及び材質でシェアNo.1になるべく、お客様の真のニーズに合致した価値やソリューションをお届けしていきたいと思っております。また、海外市場においては、本格的に参入できていないアジア地域のミドルゾーン(中価格)市場に「風穴」を開け、収益の拡大を図ってまいります。半導体製造設備向けの減収や2019年5月に稼働を開始した新基幹システムの減価償却費の増加により、バル

ブ事業セグメントの2019年度計画は、売上高1,060億円、営業利益135億円であり、前期比では減収減益となりますが、この計画の確実な達成を目指してまいります。

### 中長期の成長に向けて

アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.が、新たにインドネシアに駐在員事務所を設置した他、2016年6月に開設したベトナムの駐在員事務所を法人に改組して、KITZ Valve & Actuation Vietnam Co., Ltd.として活動を開始しました。

伊那工場において、バタフライバルブの生産能力増強のための設備投資を実施し、リードタイム短縮とコストダウンへの取り組みを始めました。また、増産対応のため、フィルター事業を担う株式会社キッツマイクロフィルターの新工場建設を決め、現在工事が進んでいます。

2018年9月に完了した中東の大型天然ガス処理プラントへの納入においては、欧州拠点との共同ワークでグループシナジーを発揮することができ、今後のプロジェクトビジネスに弾みをつけることとなりました。

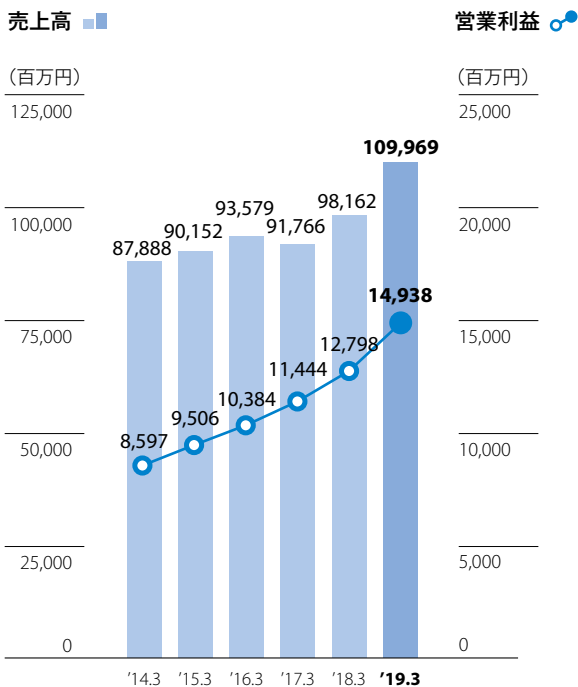


約600台の大口径自動操作バルブを出荷

クリーンエネルギー分野への取り組みとしては、長坂工場に小型パッケージユニットを用いた水素ステーションを建設し、運用の実証を通じて、今後のバルブ開発のための技術蓄積を行っています。また、2019年2月には、燃料電池フォークリフトを導入し、稼働の実証を開始しました。

重点エリアや市場分野ごとの成長への布石は、確実に打っているものと思っています。

### バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



※バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値

# KITZ Group + Water

## 命の源である「水」

— 安心してお使いいただくために —

### 水の安定供給を支える

水は、私たち人類をはじめ、全ての生き物にとってなくてはならない命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスの提供を通して、水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

### 水処理技術の進化

キッツグループの歴史は、水からスタートしました。創業時から製造している青銅製バルブをはじめ、長年にわたって水の流れを制御する「給配水」を担う商品を提供し続けてきました。その後、膜を使って水をきれいにする「浄

水」の技術、海水などの飲用に適さない水を浄化・淡水化する「造水」の技術へと、キッツグループの“水の安心を高める”技術は着実に進化しています。

### 水に関する問題の解決に向けて

現在では、バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料など、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準にえています。キッツグループは、グループの力を結集し、長年培ってきた経験、技術、商品、サービスを通して、世界の“水に関する問題”の解決に貢献していきたいと考えています。

#### ソフトシール仕切弁 清水合金製作所

水道管路用として最も多く使われている。



#### メータユニット キッツ

水道メータと継手類をユニット化。



#### 青銅・黄銅製バルブ キッツ 東洋バルブ 三吉バルブ

オフィスビル、ホテルなどの建築設備の空調や衛生、工場の生産設備や工作機械、装置など、あらゆる分野で使用される。



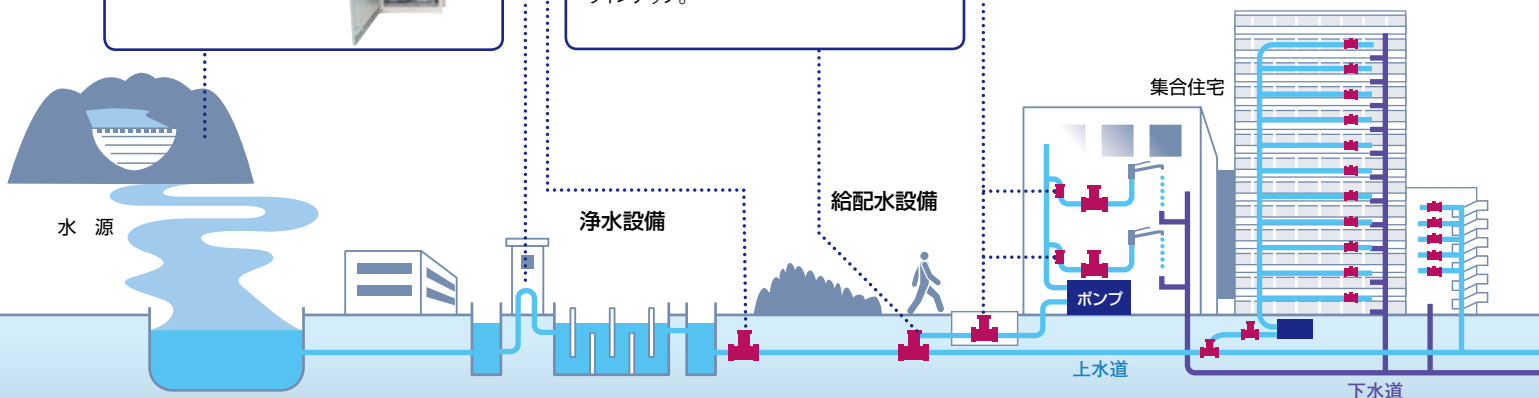
#### 精密膜ろ過浄水装置 清水合金製作所

膜分離浄水システムを活用し、安全でおいしい水をつくる装置。



#### 給水装置用バルブ キッツ

給水管と配水管をつなぐ分水栓、止水栓、金属継手など幅広い商品をラインナップ。





ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キットグループのESG

データ編

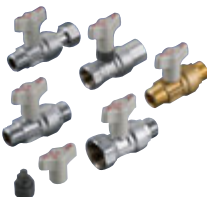
### 給水設備用バルブ キット

鉛の浸出量を抑え、給水・給湯ラインの安全性を確保。



### 給湯器用バルブ キット

コンパクトな省スペース型の給湯器に合わせて設計。



### ピュアキレイザー 東洋バルヴ

オゾン・紫外線・光触媒を組み合わせ、促進酸化処理を用いた画期的な水処理装置。



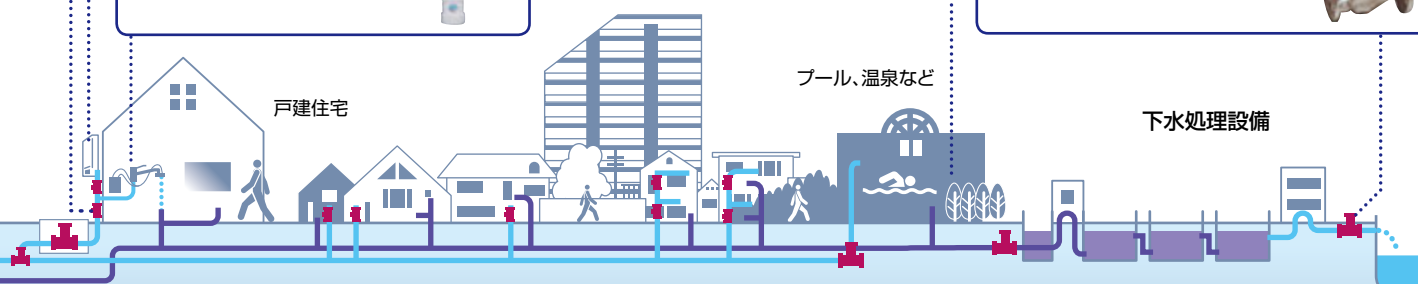
### 家庭用浄水器 キットマイクロフィルター

中空糸膜製造技術を応用した家庭用浄水器。



### 水処理施設用バルブ キット

ゲートバルブやボールチャッキバルブなど、下水処理の過程で必要とされる。



# KITZ Group + Energy

## 産業を動かす大切なエネルギー資源である「石油、ガス」

—— 絶え間なく送り続けるために ——

### エネルギーの安定供給を担う

石油、ガスなどのエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地などのプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

### 過酷な環境で流体を制御

石油・ガスプラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力など厳

しい使用環境を想定した様々な試験や分析・評価を繰り返し、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

### クリーンなエネルギー社会に向けた製品開発

さらにキッツグループは、国内のバルブメーカーとして初めて、次世代エネルギーの本命と言われる水素を動力源とする燃料電池自動車に、高圧の水素を供給する水素ステーション用ボールバルブを開発するなど、環境に配慮した製品の開発にも力を入れています。

#### メタルシートボールバルブ

Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能。耐久性も高い。



#### 鋳鋼製バルブ

キット

各種プラントの高温・高圧の条件下での使用に適している。



#### 空気圧式・電動式自動操作バルブ

キット

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。



#### 3ピース・トラニオンボールバルブ

KITZ Corporation of Europe, S.A.

オイル及びガスをはじめ、石油精製から石油化学、化学までのエネルギー分野で幅広く使用される工業用ボールバルブ。



#### ステンレス鋼製バルブ

キット

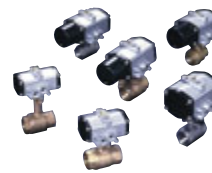
耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用される。



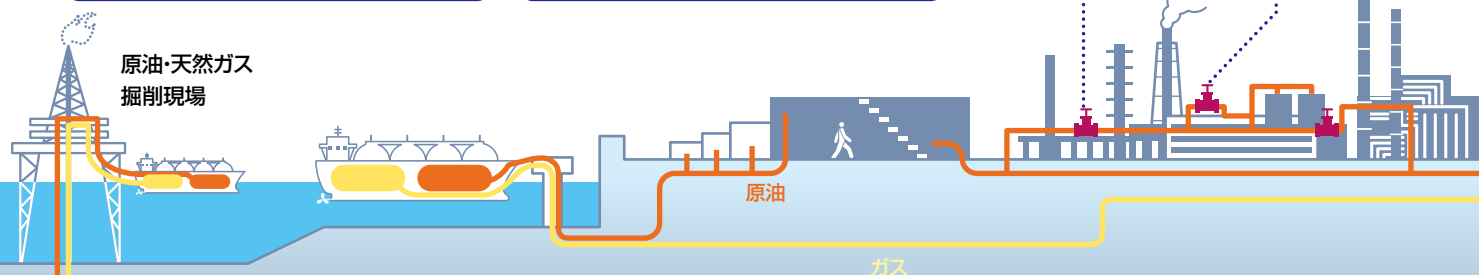
#### 小型自動操作バルブ

キット

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズに対応。



石油精製・石油化学プラント







ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キットグループのESG

データ編

**全溶接形鍛鋼製  
ボールバルブ  
キット**

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。



LNG(液化天然ガス)基地・搬送設備

**低温用バルブ  
キット**

LNG製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガスなどに対応。



**LNG用低温調節弁  
ワイケイブイ**

米・VALTEK INCORPORATED(現FLOWSERVE CORPORATION)の技術に基づいたLNG用低温調節弁。



**水素ステーション用  
超高圧ボールバルブ**

優れた封止性能と耐久性を持つ水素ステーション用超高圧ボールバルブ。



**精密ろ過フィルター  
キットマイクロフィルター**

半導体や医療に貢献する微細孔径、低溶出の中空糸膜フィルター。



**高純度ガス用バルブ  
キットエスシーティー**

クリーン、高耐久性のステンレス製ダイヤフラムバルブ及びベローズバルブ。



水素ステーション

半導体  
製造設備

火力発電所



# 高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

## 研究開発のコンセプト

キットグループの開発設計部門は、「お客様に感銘的な創造商品を継続的に提供し、技術体質の強化とともに企業価値を持続的に向上させます」を行動指針として、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

### ■ コアテクノロジー

バルブの核となるシール技術、素材及び工法技術における一貫した要素技術開発

### ■ ソリューション提供

お客様や市場の困りごとに密着し、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供

### ■ スピード&グローバルネットワーク

世界各地のお客様の多様なニーズにお応えする、国内外のグループネットワークを活用した迅速な製品開発

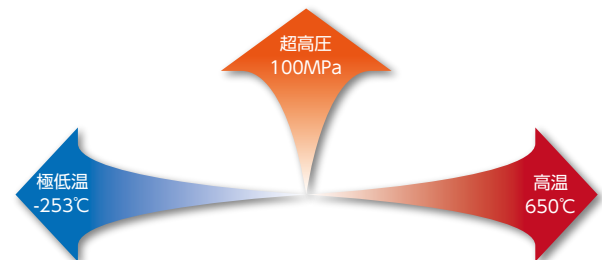
## 幅広い分野でライフラインを支える

### シール技術と素材開発

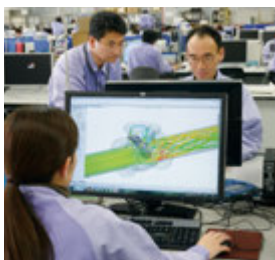
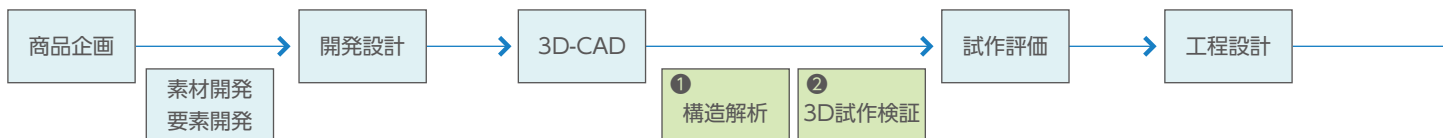
汎用バルブ単体の製造からスタートしたキットは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値商品の開発に取り組んできました。

それを可能にしているのは、バルブの核となるシール技術と素材開発です。シール技術は、低圧から超高圧、極低温から高温までの幅広い分野に展開され、これまで9万種を超える商品を生み出してきました。また、長い歴史の中で培われてきたノウハウにより、最適な金属材料を自社で開発し、それを高い鋳造技術により商品化してきました。これらの技術は現在も進化しています。

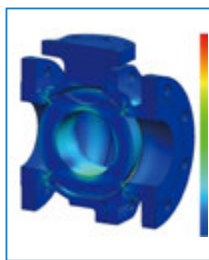
### バルブの核となるシール技術



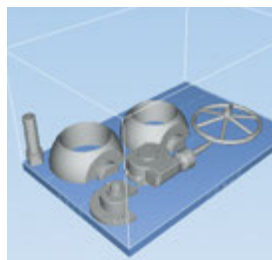
## バルブの研究開発工程



流体解析



構造解析



### ① 構造解析

シミュレーションによる流体解析や応力等の構造解析を用い、製品の最適な構造を導き設計を行う。

### ② 3D試作検証

3Dプリンター造形により、早期に試作品による検証が可能。お客様が実際に触れて確認することができるサンプル品としても活用。

## 世界のユーザーの信頼に応えるトップレベルのテクノロジー

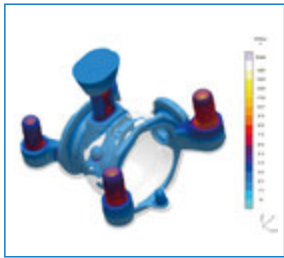
キッツグループの開発設計部門は、建築設備、石油化学、クリーンエネルギー、水処理及び半導体等の幅広い分野で、お客様に価値を提供できるよう研究開発に取り組んでいます。

常にマーケットインの思想をベースに、高品質で独創的な商品をお客様にお届けするため、グループ一丸となって、高機能化・超精密化する商品技術・生産技術を育み、様々な分野で技術の種を開花させています。

グループのシナジーを最大に発揮するため、日本をは

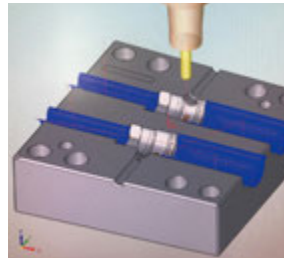
じめ、欧州、米州、アセアンの技術者が協働し、グループウェア等のネットワークを活用しながら製品の開発設計を進めるなど、各地域の人財や技術を活かした世界最適設計の技術体制を確立しています。また、各国の市場や法規制に適合する素材や仕様による製品開発も展開しています。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々、価値創造に挑戦し続けることによって、卓越した「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。



### ③ 鋳造解析

凝固解析により鋳造に最適な型の方案設計を行う。



CAM

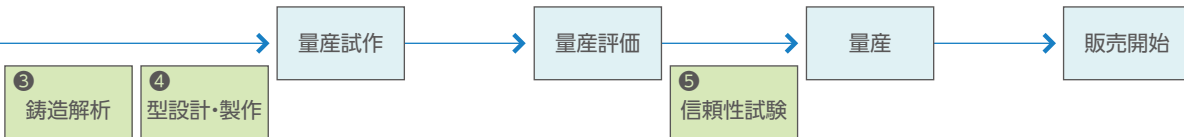


型製作

### ④ 型設計・製作

型設計を行ったCAM※データを加工設備に反映し、自社内で型を製作する。

※ Computer Aided Manufacturing



### ⑤ 信頼性試験

あらゆる使用条件を想定した試験・分析を行う。



#### 低温試験

LNGは低温の流体のため、低温状態を再現して試験を行う。



#### ファイアテスト

バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であるかを確認する。



#### ブローオフ試験

高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力が加わるため、使用限界条件下でのバルブの正確な動作を確認する。



#### ローエミッションテスト

国内では、唯一、API規格に基づくメタンガスによる試験設備を自社で保有。実際の流体を使用した漏れ試験を行う。



# 高品質を実現する生産体制

キッツグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」「必要な量だけ」「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

## 素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

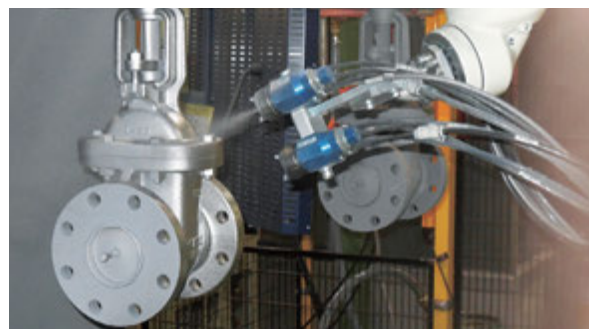
キッツグループは一貫生産を基本に考え、バルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、鋳物から社内生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持つ一貫生産体制によって、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

## 「KICS」に基づく生産方式

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ製品をつくることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立しているのと同時に、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

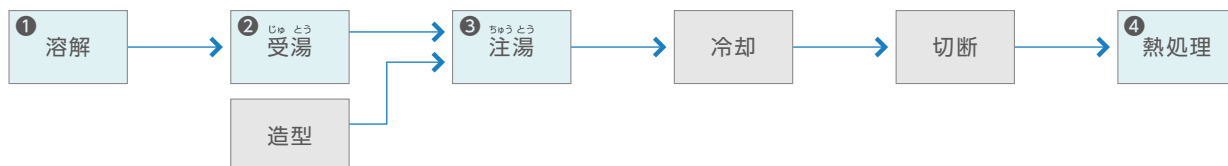
## 付加価値を生み出す製造現場に

キッツは、お客様にご満足いただける品質、価格、納期、サービスの実現を目指し、新しい生産技術や製造プロセスへの積極的な投資を進めています。以前から実施している製造現場へのロボットの導入に加えて、ICT技術を活用した設備管理や画像処理、センサー技術を応用した検査も取り入れています。コア技術においては、新しい鋳造方法の採用や新材料の研究により、さらなる強化を図っています。これらの取り組みにより、製造現場を、より付加価値を生み出すプロセスへと進化させています。



伊那工場に導入した塗装ロボット

## ステンレス鋼製バルブの生産工程



**①溶解**  
原材料を高周波電気炉で溶かす。



**②受湯**  
溶湯を取鍋に入れる。



**③注湯**  
鋳型に溶湯を流し込む。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込む。



**④熱処理(固溶熱処理)**  
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)。これにより、均一な金属組織が得られ、引っ張り、伸びなどの機械的性質(強度)を高めるとともに、耐食性を確保できる。



## 品質マネジメントシステムに裏付けられた キッツブランド

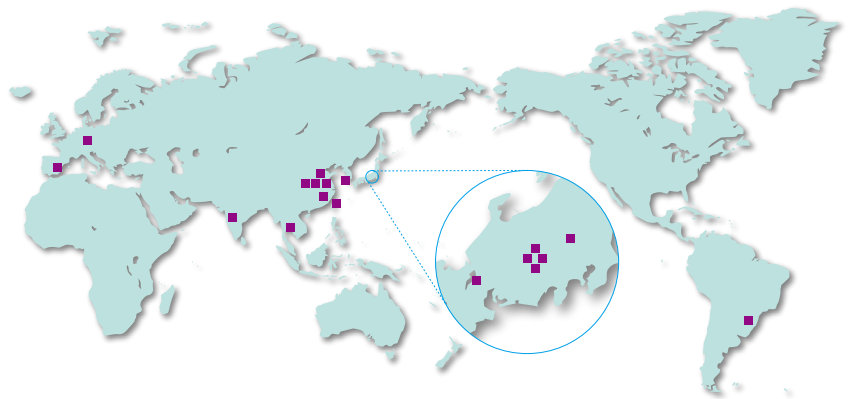
キッツは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キッツグループにおける国内外全ての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場で認証を継続しています。2019年2月には、グループ会社である株式会社キッツエンジニアリングサービスが、キッツグループでは初となる「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲において認証を取得しました。その他、日本のバルブメーカーとして最初に Pressure Equipment Directive (PED) の認証を2001年7月に取得、台湾、タイ、中国、スペイン、ドイツの生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS (日本工業規格) 製品認証やJWWA (日本水道協会) が定める規格、また、国内及び中国の生産拠点において、API (アメリカ石油協会) の Monogram 表示許可などを取得しています。

## 世界最適地生産を目指した グローバルな生産ネットワーク

キッツグループは、現在、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。

国内工場は高付加価値商品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。また海外では、タイ、台湾、中国、韓国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。



**⑤酸洗**  
熱処理やショットブラストによる鑄肌表面の酸化スケールなどの汚れを取り除く。併せて、鑄肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性をさらに高める。



**⑥機械加工**  
切削や穴開けなどの加工を行う。



**⑦組立**  
バルブの各部品を組み立てる。



**⑧圧力検査**  
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているかを検査する。

# 広範で強固な販売ネットワーク

キットグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスの全てにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

## 充実した流通体制

日本全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキットは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、各代理店が持つ在庫の基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となる他、即納ニーズへの対応も可能となります。



## きめ細かいアフターサービス

アフターサービスは、株式会社キットエンジニアリングサービス（略称:KESCO）が担当しています。

近年、国内の既設プラントにおいては、改修・ロングライフ化が推進されており、メンテナンスに対する意識が高まっています。こうした中、KESCOはキットのメンテナンス部門を担うとともに、国内外の他メーカーのバルブやアクチュエータのメンテナンスを手掛け、サービス拠点と協力会社との連携により、全国各地にスムーズできめ細かいメンテナンスサービスを提供しています。



## 日本+3極2拠点を重点エリアとして 供給体制を整備・強化

キットグループは、日本と3極(欧州、米州、アセアン)、2拠点(中国、インド)を世界市場の重点エリアと位置付け、それぞれの市場環境に応じた販売・サービス体制を強化しています。

海外では、エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持つ地域統括会社を置いて地域に密着した事業を展開し、

現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.に駐在員事務所を置く他、中国、香港、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望に迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キットオフィシャルモディフィケーションショップ」網の展開を図っています。

### 3極の地域統括会社

#### 欧州

KITZ Europe GmbH

ドイツ・フランクフルト郊外のニテラウにKITZ Europe GmbHを置いて、欧州地域のみならず中近東及びCIS市場も見据えた生産・販売戦略を推進し、事業拡大を目指しています。

Chairman

齊藤 太誉



#### 米州

KITZ Corporation of America

アメリカ・テキサス州にKITZ Corporation of Americaを置いて、北米はもちろん、中南米の国々に向けた販売活動を行っています。

President

James Walther



#### アセアン

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.

シンガポールにKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.を置いて、アセアン地域の中核拠点として営業活動を推進しています。

Chairman & Managing Director

野澤 大志



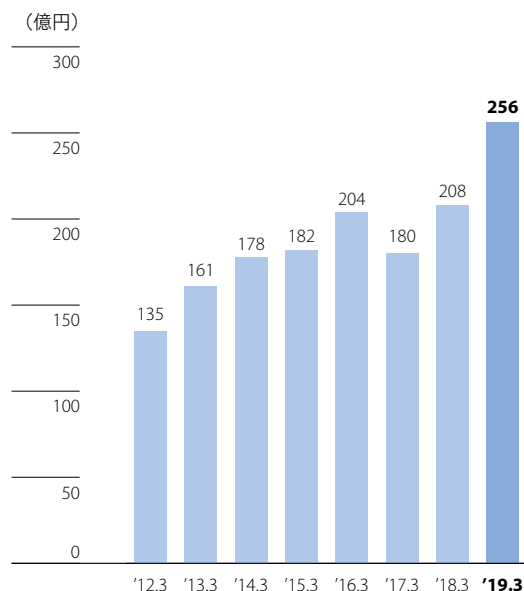
### アセアンの拠点展開を加速

アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.は、2011年の設立以来、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアに順次拠点を拡充しており、2018年6月には、インドネシア・ジャカルタに駐在員事務所を新たに開設しました。

また、2016年6月にベトナムに開設した駐在員事務所を現地法人化し、2018年12月、KITZ Valve & Actuation Vietnam Co., Ltd.を設立しました。これにより、ベトナム市場における販売活動の強化及び代理店網の拡充をより一層進めることが可能となります。

今後も、現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供するため、海外の拠点展開を加速してまいります。

### バルブ事業におけるアジア・中東市場向け売上高



# バルブ業界のリーディングカンパニーとして

キッツは、バルブ業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高度な技術と豊富な実績を活かし、お客様の様々なニーズにお応えするため、バルブに関する各種サービスを提供しています。

## お客様を対象としたバルブ技術研修

キッツ研修センターは、バルブ技術に関する日本で唯一の常設研修所です。1981年の設立以来、社内研修で活用する他、大勢の外部の方々にもご利用いただいています。近年、バルブを用いる産業は、環境・安全基準の厳格化に対応した新技術や、高機能化・省人化に対応した自動化技術の発展が著しく、これまでにないスピードで変化しています。こうした先進技術に対応できる研修プログラムとして、「バルブの基礎講座」及び「自動弁の基礎講座」を開設しています。

バルブを取り扱う商社をはじめ、工事店、ユーザー、装置メーカー、プラント関連会社、学生など、受講される方々は多岐にわたります。バルブの分解・組立、配管等の実習や、豊富な実務経験を持つ技術者による講義を通じて、受講者のバルブ技術の修得をサポートしています。



キッツ研修センター



実習室

## バルブマイスター制度

キッツでは、自動弁及びバルブの金属材料に関して、一定の技術知識レベルに達した営業担当者をバルブマイスターとして認定する「バルブマイスター制度」を2014年度より導入しています。バルブマイスターとなるため、営業担当者は約18か月、実践に基づいた専門的な教育と研修を受講。認定試験に合格した33名(2019年4月現在)のバルブマイスターが、お客様からのご相談に対して、具体的な解決策をご提案し、お客様とともに課題を解決していただけるコンシェルジュとして活躍しています。

## お客様満足度調査

キッツでは、より良い商品・サービスを提供するため、1997年より年1回、1,000社以上のお客様を対象とした満足度調査を実施しています。お客様からのご回答を収集・分析した結果をもとに、お客様によりご満足いただけるよう一層の改善に取り組んでいます。



バルブマイスターとして認定された営業担当者の名刺には、認定マークが表示されます

キッツへの満足度について調査票にご回答いただいています



# 信頼のブランド

キッツグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、あらゆる市場、分野で使われる12のブランドを展開しています。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キッツグループのESG

データ編

## Focus

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏(1915~2011年)の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、他の商品にも展開してきました。



# 伸銅品事業

## 黄銅棒の製造・販売を担う

キッツグループは、黄銅棒及び黄銅加工品(切削品及び鍛造品)の製造・販売を行う伸銅品事業を展開しています。黄銅棒は、各種機械、建築資材などに幅広く使用されています。

### 黄銅とは

黄銅とは、銅(Cu)と亜鉛(Zn)の合金であり、銅と亜鉛の割合を変化させたり、様々な金属元素を添加することにより、電気伝導性、熱伝導性、耐食性、塑性加工性及び切削加工性など多くの優れた特徴を持たせることができる金属です。

### 伸銅品事業について

株式会社キッツメタルワークスは、キッツの主力製品である黄銅製バルブの素材を供給する役割を担うとともに、水栓金具、ガス機器、家電製品及び自動車部品等の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒とその加工品の製造・販売を行っています。2015年7月には切削加工品メーカーである北東技研工業株式会社がグループに加わり、また、キッツグループの黄銅切削・鍛造工程を集約した、新工場の操業を2016年5月に開始するなど、事業の拡大を進めています。



### 環境に優しい新素材開発

長年培った合金技術を活かし、耐脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒及びカドミレス黄銅棒など、各種規制に対応した、人にも環境にも優しい新素材の開発を積極的に行っています。2019年3月、環境規制に対応するビスマス系高耐食性鉛レス黄銅棒「RCメタル」、ビスマス系超快削用鉛レス黄銅棒「RNメタル」及び新カドミレス黄銅棒「CD50」を開発し、販売を開始しました。



加工品製造ライン

### 製造設備の更新

キッツメタルワークスの製造設備の一部は、老朽化によるメンテナンス費用の増大の他、生産効率の低下などの課題を抱えていました。これらを解決し、「ものづくり力」を強化するため、新工場の建設と製造設備の更新を進めています。生産性及び品質の向上を図ることにより、今後、需要の伸びが期待される環境対応材料を安定的に供給し、より一層、お客様のニーズにお応えしてまいります。



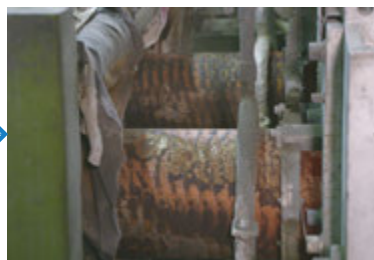
キッツメタルワークスの新工場



## 黄銅棒の生産工程



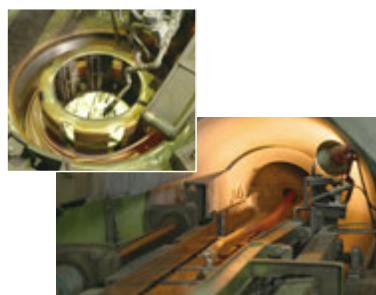
**①原料配合・溶解**  
原材料を誘導炉で溶かす。



**②連続鋳造**  
水冷式横型連続鋳造機または縦型半連続鋳造機で鋳塊を鋳造する。



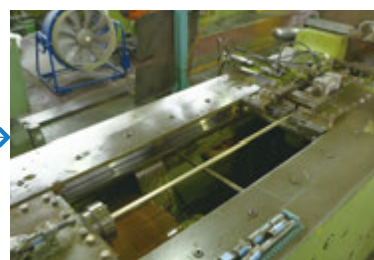
**③切断**  
鋳塊を大型の切断機で決められた長さに切断し、押し出し用のピレット(中間製品)にする。



**④加熱・押し出し**  
ピレットを所定の温度まで加熱。押し出し機により、直線棒またはコイル状に押し出す。



**⑤連続酸洗**  
押し出し工程で表面に付着した酸化物を、酸洗いにより除去する。



**⑥冷間抽伸**  
直線棒・コイルを抽伸機のダイスに通し、正確な形状と寸法の棒材に仕上げる。



**⑦矯正・切断**  
矯正機によって棒材の曲がりを除き、所定の長さに切断する。



**⑧低温焼鈍**  
棒材の残留応力の除去や硬さの調整のため、所定の温度で低温焼鈍を行う。



**⑨計量・梱包・出荷**  
完成した棒材を、所定の重量または本数で結束・梱包し配送する。

ステーキホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キッツグループのESG

データ編

## 「ホテル紅や」もキッツグループです。

創業者 北澤利男の出身地である長野県諏訪市。周辺には、キッツの主力工場である長坂工場、伊那工場及び茅野工場の他、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター等、グループの生産拠点・事業所が数多く所在しています。

ホテル紅やは、上諏訪温泉で最大級の規模を誇り、眺望抜群の温泉展望浴場や充実した岩盤浴など、多彩な温泉施設が自慢のリゾートホテルです。観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場としても利用されています。

また、中央自動車道(下り)諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道(上り)東部湯の丸サービスエリアも運営しており、地元の特産品を取り入れた料理の提供や、土産物の販売を行っています。



# キッツグループのESG

ESG : Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス)





# ESGへの取り組み

キッツグループは、ESGの視点を経営に反映させることにより、中長期的かつ持続的な成長を実現するとともに、地球環境及び社会が抱える様々な課題の解決に取り組んでまいります。

## ゆたかな社会づくりへの貢献

キッツは、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーと信頼関係を築くことを目指しています。

そのためには、企業理念である「キッツ宣言」にも掲げている通り、売上高や利益などの財務パフォーマンスのみを追求するのではなく、創造的かつ質の高い商品・サービス

の提供により、いかにゆたかな社会づくりに貢献することができるかが大切であると考えています。

2019年度を初年度とする第4期中期経営計画では、ESGのさらなる強化を重点テーマの一つとして掲げました。ESG課題の解決に取り組み、より信頼される企業となるよう努めてまいります。



# キッツグループのESG

## ESG担当役員メッセージ



持続的な企業価値向上に向けて、  
ESG課題の解決に取り組んでまいります。

村澤 俊之

取締役常務執行役員 管理本部長

### 高まるESGの重要性

企業に対する社会からの期待や企業が社会に対して果たすべき責任は多岐にわたります。昨今、世界中で、社会課題の解決に向けた取り組みが急速に進み、企業が担う役割の重要性がますます高まっています。

持続可能な社会を実現するためには、ソリューションの提供を通じて、企業が継続的に成長しながら社会的な価値を創造していくことが不可欠です。それを実践することにより、キッツが社会に「なくてはならない会社」となることが、キッツの企業価値の向上につながるものと考えます。企業価値を持続的に向上させていくためには、ESGの視点を経営に反映させ、積極的に対応していくことがより重要です。また、近年では、機関投資家が投資の意思決定を行う際は、

投資先となる企業のESGへの取り組みを考慮する動きが加速しており、そのような要請にも応えていく必要があります。

キッツは、企業理念である「キッツ宣言」にも掲げている通り、売上高や利益などの財務パフォーマンスのみを追求するのではなく、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により、いかにゆたかな社会づくりに貢献することができるかが大切であると考えています。

### ESGへの取り組み

キッツは、メーカーとしての責任を果たすとともに社会から信頼される企業を目指しています。

環境面では、CO<sub>2</sub>排出量削減を継続的に推進する他、資源の有効活用、廃棄物の削減と再使用・再利用の推進、環境汚染の防止・予防、環境に配慮した商品・サービスの開発と提供に取り組んでいます。

社会面では、社員が「働きがい」を感じられる環境を目指し、人財育成プログラムを充実させるとともに、一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、人事制度の改革を進めています。また、よき企業市民として社会や地域の皆様のお役に立ちたいと考えており、商品・サービスの提供を通じた社会貢献に留まらず、主に事業所が所在する地域社会との共生や環境保全に関わる活動にも継続的に取り組んでいます。

ガバナンス面においては、2017年6月より社外取締役



を2名から3名に増員(現在、取締役7名中3名が社外取締役)し、監督と執行を明確に分離している他、社外取締役が過半数を占める指名委員会と報酬委員会をそれぞれ任意に設置し、役員人事とその報酬の透明性を確保するなど、社会的に責任ある企業として、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めてまいりました。

2019年7月には、役員直轄の「サステナビリティ推進室」を新たに設置しました。国際連合により採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けた取り組みを推進しています。

### 社内の意識改革を促進

ESGの重要性を認識し、具体的な活動につなげていくために、社会課題に対する意識が社内で一層高まるように努めています。

人財を例にあげると、社員一人ひとりが高いモチベーションと充実感を持ちながら働くことができる環境を整えるとともに、個人のライフステージの変化に応じて多様な柔軟な働き方を選択することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの充実に取り組んでいます。また、多種多様な知識や価値観の組み合わせが、新たな発想や創造の源泉であると考え、性別、年齢、国籍などの違いにとらわれることなく、最大限の力を発揮して活躍することができる環境づくりを進めています。社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働くことができるよう、労働安全衛生に関する法令や社内規程の遵守をはじめとする安全衛生教育にも力を入れています。

その他、コンプライアンス教育、ダイバーシティ推進や



グループ会社を対象とした女性活躍推進セミナー

キャリア開発をテーマとした講演会の開催による啓蒙や社内報による情報発信を継続し、さらなる社内の意識改革を促進してまいります。

### 非財務分野のパフォーマンス向上を目指して

ESGを含む非財務情報の開示の重要性を認識しており、ウェブサイト、コーポレートレポート(統合報告書)、環境報告ダイジェスト及び株主通信といった媒体の他、様々な活動を通して、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーの方々と直接対話する機会を積極的に設け、信頼関係を築くように努めています。建設的な対話によって得られたご意見を真摯に受け止め、経営効率の改善や経営の透明性向上に向けた取り組みに反映させています。

情報開示の強化は客観的な評価につながります。できていること、不足していることが分かる他、外部からのキッツへの期待も把握できます。それらをもとに、さらに取り組みを強化し、成果に結び付けることができれば、開示できる情報の中身も充実し、これまでも増してステークホルダーの方々からの期待に応えていきたいと思えるような好循環につながると考えています。

単なる非財務情報の開示に留まることなく、非財務分野のパフォーマンスの一層の向上を目指してまいります。



キッツウェブサイト(会社情報)

株主通信

# 経営体制

(2019年6月30日現在)

## 取締役



代表取締役社長 **ほった やすゆき**  
**堀田 康之**

1955年6月18日生  
1978年 3月 当社入社  
1997年 1月 営業本部中部支社長  
2001年 4月 長坂工場長  
2001年 10月 株式会社キッツエスシーティー常務取締役  
2004年 6月 同社代表取締役社長  
2006年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業部長  
2007年 4月 専務執行役員、バルブ事業部長  
2007年 6月 取締役、専務執行役員、バルブ事業部長  
2008年 6月 代表取締役社長、社長執行役員、バルブ事業部長  
2009年 4月 代表取締役社長、社長執行役員、現在に至る



取締役 **なとり としあき**  
**名取 敏照**

1957年1月20日生  
1980年 3月 当社入社  
1999年 10月 生産本部茅野工場長  
2004年 4月 株式会社キッツメタルワークス常務取締役  
2009年 7月 同社代表取締役社長  
2010年 4月 当社執行役員、生産本部長  
2011年 6月 取締役、執行役員、生産本部長  
2012年 4月 取締役、常務執行役員、生産本部長  
2013年 4月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長  
2014年 4月 取締役、専務執行役員、バルブ事業統括本部長  
2019年 4月 取締役、副社長執行役員、アジア汎用弁戦略室長、現在に至る



取締役 **むらさわ としゆき**  
**村澤 俊之**

1959年2月9日生  
1981年 3月 当社入社  
2001年 4月 経営企画部長  
2009年 4月 執行役員、経営企画部長  
2011年 10月 執行役員、経営企画本部長  
2016年 4月 執行役員、管理本部長  
2016年 6月 取締役、執行役員、管理本部長  
2019年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長、現在に至る



取締役 **こうの まこと**  
**河野 誠**

1966年3月10日生  
1988年 4月 当社入社  
2008年 8月 バルブ事業部海外営業本部プロジェクト営業部長  
2011年 12月 プロジェクト統括部長  
2013年 4月 バルブ事業統括本部生産本部生産管理部長  
2015年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長  
2016年 4月 執行役員、経営企画本部長  
2017年 4月 KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd. CEO & Managing Director及びKITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd. Managing Director  
2019年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業統括本部長  
2019年 6月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長、現在に至る



取締役(社外) **まつもと かずゆき**  
**松本 和幸**

1945年9月21日生  
1970年 4月 帝人製機株式会社入社  
2001年 6月 同社取締役  
2003年 9月 ナブテスコ株式会社執行役員  
2004年 6月 同社取締役  
2005年 6月 同社代表取締役社長  
2011年 6月 同社取締役会長  
2013年 6月 同社相談役  
株式会社トプコン社外取締役、現在に至る  
当社社外取締役、現在に至る



取締役(社外) **あもう みのる**  
**天羽 稔**

1951年12月9日生  
1979年 4月 デュボンファーマーイースト日本支社(現デュボン株式会社)入社  
2000年 3月 同社取締役  
2002年 3月 同社常務取締役  
2004年 3月 同社専務取締役兼エンジニアリングポリマー事業部アジア太平洋地域リージョナルディレクター  
2005年 7月 同社取締役副社長  
2006年 9月 同社代表取締役社長  
2013年 1月 同社代表取締役会長兼デュボンアジアパシフィックリミテッド社長  
2014年 9月 デュボン株式会社名誉会長  
2015年 6月 当社社外取締役、現在に至る  
2016年 3月 大塚化学株式会社監査役  
2019年 3月 同社社外取締役、現在に至る



取締役(社外) **ふじわら ゆたか**  
**藤原 裕**

1951年4月20日生  
1974年 4月 三井海洋開発株式会社入社  
1987年 4月 安田信託銀行株式会社(現みずほ信託銀行株式会社)入社  
1994年 8月 同社ニューヨーク副支店長  
1996年 6月 同社シカゴ支店長  
1998年 8月 オムロン株式会社入社  
2005年 6月 同社執行役員、財務IR室長  
2007年 3月 同社執行役員、グループ戦略室長  
2008年 12月 同社執行役員常務、IR企業情報室長  
2013年 6月 ナブテスコ株式会社社外取締役、現在に至る  
2017年 6月 当社社外取締役、現在に至る



# 監査役



**常勤監査役** **近藤 雅彦**  
こんどう まさひこ  
 1952年9月8日生  
 1977年 8月 当社入社  
 2000年 7月 総務人事部長  
 2004年 4月 執行役員、総務人事部長  
 2010年 4月 執行役員、管理本部副本部長  
 2012年 6月 取締役、執行役員、管理本部長  
 2014年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長  
 2016年 6月 常勤監査役、現在に至る



**常勤監査役** **木村 太郎**  
きむら たろう  
 1959年8月4日生  
 1991年 12月 当社入社  
 2001年 6月 経理部長  
 2010年 4月 管理本部経理統括部長  
 2011年 4月 執行役員、管理本部副本部長  
 2017年 6月 常勤監査役、現在に至る



**監査役(社外)** **高井 龍彦**  
たかい たつひこ  
 1952年2月3日生  
 1974年 7月 三井金属鉱業株式会社入社  
 2004年 6月 同社執行役員財務部長、三井金属エソジニアリング株式会社社外監査役  
 2007年 6月 三井金属鉱業株式会社最高財務責任者(CFO)兼上席執行役員財務部長  
 2008年 6月 同社常勤監査役  
 2011年 6月 株式会社ナカポテック社外監査役  
 2015年 6月 当社社外監査役、現在に至る



**監査役(社外)** **作野 周平**  
さくの しゅうへい  
 1954年2月17日生  
 1977年 4月 株式会社横河電機製作所(現横河電機株式会社)入社  
 1999年 10月 同社関連会社統括室長  
 2005年 4月 同社執行役員、経営管理本部経理財務センター長  
 2008年 6月 同社常務執行役員、経営監査本部長  
 2016年 6月 横河ソリューションサービス株式会社監査役  
 2017年 6月 当社社外監査役、現在に至る



**監査役(社外)** **小林 彩子**  
こばやし あやこ  
 1975年10月14日生  
 2000年 10月 弁護士登録  
 2009年 1月 片岡総合法律事務所パートナー  
 2013年 9月 慶應義塾大学法科大学院非常勤講師、現在に至る  
 2018年 4月 弁護士法人片岡総合法律事務所パートナー、現在に至る  
 2019年 6月 当社社外監査役、現在に至る

## 取締役及び監査役の選任理由

	氏名	在任年数	選任理由
取締役	堀田 康之	12年	健全で透明性の高い経営を実現すべく、コーポレート・ガバナンスの強化と当社グループのグローバル化を強力に推進するとともに、企業価値の向上に取り組んできました。豊富な見識と経験に基づく優れた経営判断能力を活かし、経営の監督と執行、取締役会における重要な意思決定機能及び経営監督機能の強化への貢献が期待できると判断しました。
	名取 敏照	8年	生産部門担当の取締役執行役員や国内グループ会社の代表取締役及び海外グループ会社の取締役を歴任し、よいモノづくりを通して、当社グループの持続的な企業価値の向上に貢献してきました。豊富な経験と実績を取締役会における経営戦略等の立案・審議や執行の監督等に活かすことができると判断しました。
	村澤 俊之	3年	経営企画部門、管理部門の取締役執行役員及びグループ会社の取締役を歴任し、当社グループの事業戦略の立案・執行をはじめ、人材育成やダイバーシティを推進し、持続的な企業価値の向上に貢献してきました。豊富な見識と経験を取締役会における経営戦略等の立案・審議や執行の監督等に活かすことができると判断しました。
	河野 誠	新任	パルプ事業の営業部門及び生産部門の業務に携わり、また、経営企画部門担当の執行役員や海外グループ会社の経営者としての経験も有しており、パルプ事業を強力に牽引していくことが期待されます。豊富な知識と経験を取締役会における経営戦略等の立案・審議・執行の監督等に活かすことができると判断しました。
	松本 和幸	6年	ナプテスコ株式会社の経営者として長年にわたり活躍され、企業経営者としての豊富な経験に加え、技術戦略に関する幅広い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。
社外	天羽 稔	4年	グローバルに事業を展開するデュポン株式会社の経営者として長年にわたり活躍され、企業経営にかかる豊富な経験に基づく高い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。
	藤原 裕	2年	金融機関の海外支店責任者を歴任した後、グローバルに事業を展開するオムロン株式会社において財務・IR・グループ戦略を担当する執行役員として活躍され、グローバルな観点からの経営管理に高い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。
監査役	近藤 雅彦	3年	グループ会社を統括する管理部門担当の取締役として当社の経営に携わり、経営基盤の強化やグループリスクマネジメント体制の構築及び強化を推進してきました。これらの事業経営、労務・会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
	木村 太郎	2年	長年にわたり、当社経理・財務部門を主管するとともに、グループ会社を統括する管理部門担当の執行役員として、内部統制システムの整備と内部監査機能の強化に加え、リスクマネジメント体制の構築を推進してきました。これらの内部統制、リスク管理等及び会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
	高井 龍彦	4年	三井金属鉱業株式会社において、長年、同社の経理、経営企画等の業務を担当されたのち、最高財務責任者(CFO)兼上席執行役員等を歴任され、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しておられ、また、当社における常勤監査役としての豊富な経験を当社の監査に反映していただくと判断しました。
	作野 周平	2年	横河電機株式会社グループを統括する経営管理部門における幅広い経験と会計・財務に関する相当程度の知見を有しておられるとともに、内部統制・リスク管理・内部監査体制の構築等の経験を通じて、コーポレート・ガバナンスに関する見識も備えておられることから、その豊富な経験を当社の監査に反映していただくと判断しました。
	社外	小林 彩子	新任

## 執行役員

社長執行役員 **堀田 康之**

副社長執行役員 **名取 敏照**

常務執行役員 **村澤 俊之**

常務執行役員 **河野 誠**



執行役員 **坂根 哲夫**

1955年7月23日生

1980年 3月 当社入社  
2001年 4月 汎用弁事業本部中国支店長  
2011年 4月 営業本部大阪支社長  
2014年 4月 執行役員、国内営業本部長  
2019年 4月 執行役員、国内営業本部長兼アジア汎用弁戦路室副室長、現在に至る



執行役員 **小山 順之**

1959年3月9日生

1984年 3月 当社入社  
2007年 4月 生産本部生産技術部長  
2008年 10月 生産本部SC製造部長  
2013年 4月 生産本部生産技術センター長  
2015年 4月 執行役員、CS統括センター長、現在に至る



執行役員 **葛城 健志**

1956年10月31日生

1999年 6月 Panasonic Australia Pty. Ltd. (Finance Director)  
2006年 5月 パナソニック株式会社海外部門制度グループ グループマネージャー  
2008年 1月 Panasonic Consumer Electronic Company, a division of Panasonic North America Corp., (Vice President)  
2009年 10月 パナソニック株式会社監査部監査人  
2011年 4月 同社海外部門海外経理センター所長  
2012年 1月 Panasonic Europe Ltd. (Director, CFO)  
2016年 8月 当社入社  
2017年 4月 執行役員、管理本部副本部長、現在に至る



執行役員 **平島 孝人**

1959年9月10日生

1985年 3月 当社入社  
2002年 7月 生産本部諏訪工場長  
2004年 4月 株式会社キッツマイクロフィルター取締役  
2006年 4月 同社代表取締役社長  
2011年 4月 当社執行役員、技術本部長  
2012年 6月 取締役、執行役員、技術本部長  
2017年 4月 執行役員、技術本部長  
2018年 2月 技術本部長  
2019年 4月 執行役員、技術本部長、現在に至る



執行役員 **平林 一彦**

1959年8月6日生

1982年 3月 当社入社  
2004年 4月 生産本部生産企画部長  
2012年 4月 生産本部副本部長  
2013年 4月 執行役員、生産本部長、現在に至る



執行役員 **小出 幸成**

1959年1月15日生

1982年 3月 当社入社  
1999年 8月 三吉バルブ株式会社常務取締役  
2004年 12月 国内営業本部中部支社長  
2008年 4月 国内営業本部営業企画部長  
2013年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長  
2015年 4月 執行役員、IT統括センター長、現在に至る



執行役員 **栗原 等**

1957年12月14日生

1981年 3月 当社入社  
1998年 3月 汎用弁事業本部中国支店長  
2001年 4月 汎用弁事業本部東京支社長  
2005年 4月 執行役員、国内営業本部長  
2012年 6月 取締役、執行役員、営業本部長  
2014年 4月 KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd. Chairman  
2017年 4月 執行役員、経営企画本部長、現在に至る



執行役員 **田草川 勝**

1962年10月4日生

1991年 3月 当社入社  
2004年 4月 技術本部開発第三部長  
2007年 4月 技術本部研究部長  
2008年 4月 技術本部第二設計部長  
2010年 4月 技術本部商品開発部長  
2015年 4月 生産本部生産技術センター長  
2017年 4月 執行役員、プロダクトマネジメントセンター長、現在に至る



執行役員 **沖村 一徳**

1959年9月5日生

1983年 4月 藤沢薬品工業株式会社(現アステラス製薬株式会社)入社  
2009年 4月 同社法務部長  
2012年 4月 同社法務・コンプライアンス部長  
2013年 6月 同社執行役員、法務・コンプライアンス部長  
2016年 4月 同社執行役員、法務部長  
2018年 6月 当社入社  
2019年 4月 執行役員、法務部長、現在に至る

# コーポレート・ガバナンス

キッツは、持続的な成長と企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組み、ステークホルダーからの期待と信頼に応えてまいります。

## コーポレート・ガバナンスの基本方針・体制の概要

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により企業価値の持続的な向上を目指し、ゆたかな社会づくりに貢献することを企業理念に掲げ、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めています。

また、迅速かつ効率が良く、健全で透明性の高い経営の実現とコンプライアンスの強化を図るため、様々な施策を講じ、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることとしています。

キッツは、取締役会及び業務執行を適切に監督する機能を強化するため、社外取締役3名を選任しています。また、社外監査役が過半数(3名)を占める監査役会を設置することにより監査体制の強化を図っています。

さらに、過半数を社外取締役で構成する任意の「指名委員会」及び「報酬委員会」を取締役会の諮問機関として設置

し、取締役候補、監査役候補及び執行役員の人事並びに取締役及び執行役員の報酬の決定について、客観性・透明性の向上を図っており、監査役会設置形態による統治が十分有効に機能しているものと判断しています。

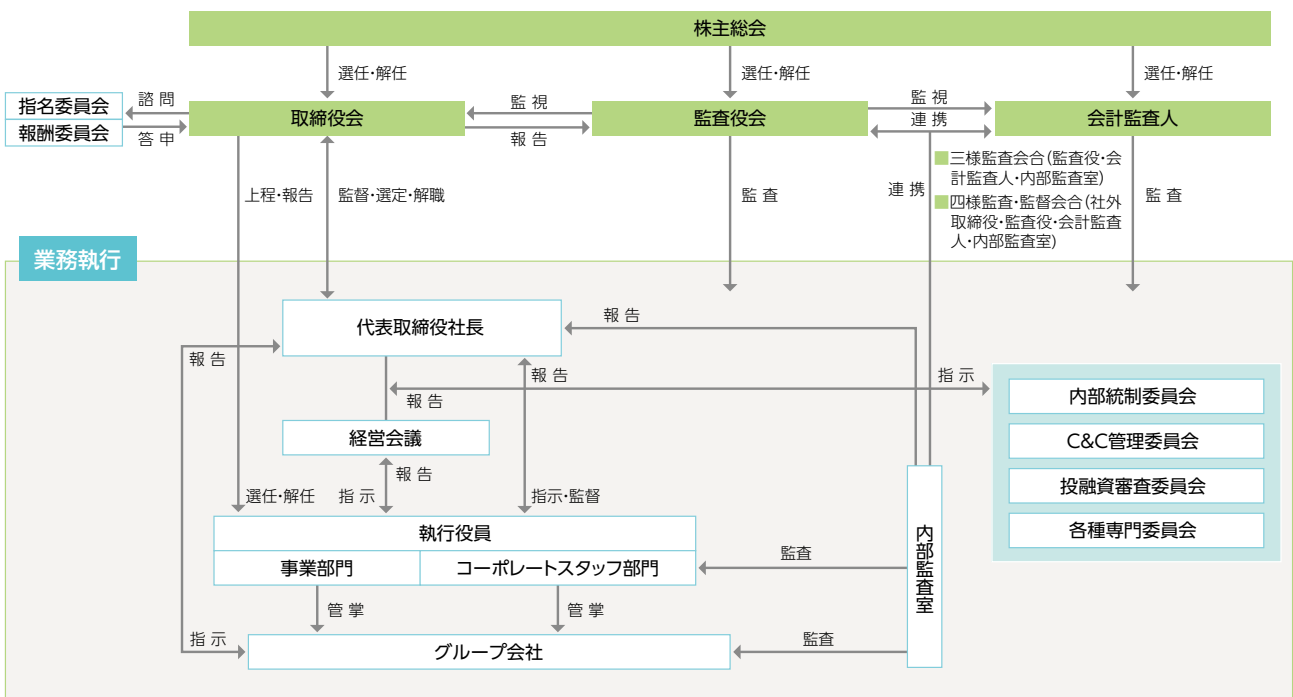
また、各組織の業務は職務権限規程及び稟議決裁規程に基づいて行っており、キッツ及びグループ会社の取締役会の意思決定は、取締役会規程及びグループ会社規程に基づいて行っています。加えて、グループ経営の適切な意思決定に係る重要事項について審議・評価するため、内部統制、クライシス対応、リスク管理、コンプライアンス推進、安全保障貿易管理、投融资審査及び情報セキュリティ・個人情報保護などに関する各種専門委員会組織を設置し運用しています。

## 取締役会

### ●取締役会の構成・活動

キッツの取締役会は、株主に対する経営の受託者とし

## コーポレート・ガバナンス体制の概要



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キッツグループのESG

データ編

ての責任を踏まえ、キッツグループの持続的成長及び中長期的な企業価値の向上を目指し、経営方針、中長期経営計画及び各年度の事業計画等を含む経営上の重要事項の審議、決定及び業務執行の監督を行うとともに、キッツグループ全体の内部統制システムの構築の責務を担っています。

取締役会は、業務執行取締役4名と社外取締役3名の計7名で構成されており、取締役会規程に定められた付議事項についての審議・決議を行う他、経営上の重要な諸課題について闊達な議論を行っています。なお、取締役の任期は、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を図るため1年としています。

社外取締役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有し、取締役会の経営判断や意思決定に加わる他、経営判断に対する適切な助言及び業務執行の監督の役割を果たしています。

取締役会の開催は、原則として毎月1回定時取締役会

を、四半期ごとに決算取締役会を、必要に応じて臨時取締役会をそれぞれ開催しており、法令で定められた事項及び取締役会規程に定めた事項について審議・決定する他、各業務執行取締役から定期的に業務執行の状況報告を受けることなどにより、取締役の職務執行を監督しています。

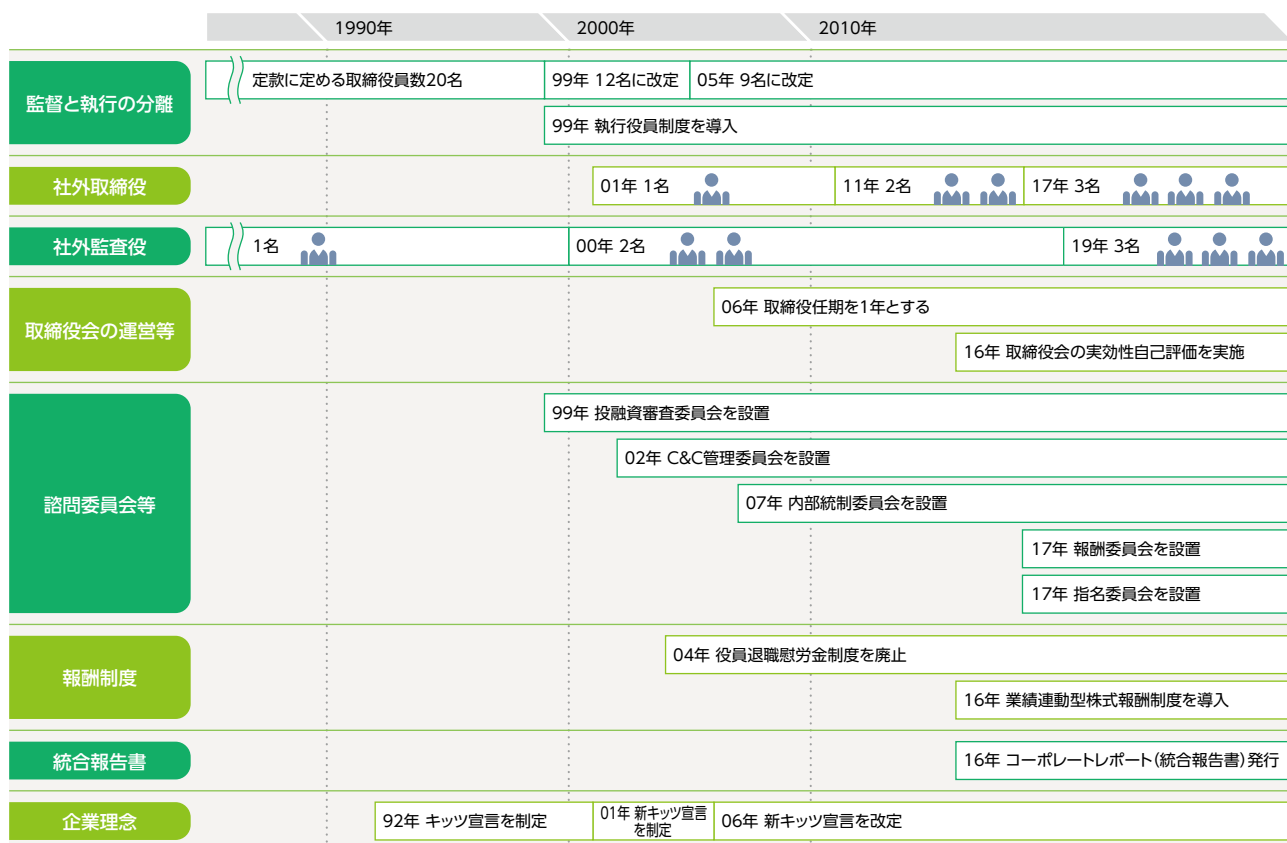
### ●取締役会の実効性評価

キッツは、コーポレート・ガバナンスの実効性及び取締役会の機能向上を図ることを目的として、毎年、全ての取締役及び監査役を対象に「取締役会の実効性に関するアンケート調査」を行っています。

そして、得られた回答及び今後の実効性改善に関する意見を踏まえ、取締役会において現状の評価結果の検証、課題の共有及び今後の改善対応等の取り組みについて闊達な議論を行っています。

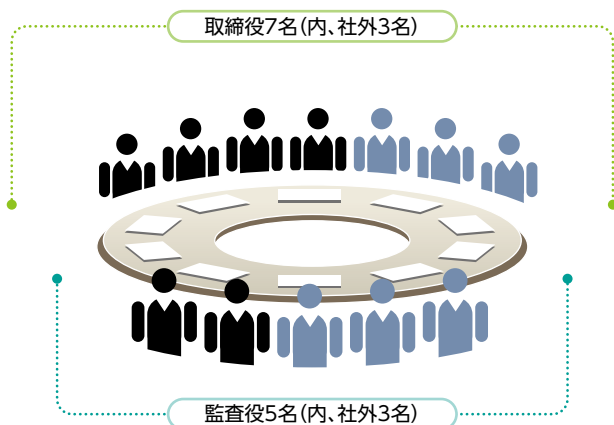
なお、2019年5月に実施したアンケート調査では、経営

## コーポレート・ガバナンスへの取り組み





戦略の策定及び実行、取締役会の構成、役員の指名・報酬、監査、社外取締役に期待する役割、取締役会の審議の活性化、株主・その他ステークホルダーへの対応に関する項目等について行いました。その結果、取締役会の実効性は概ね確保できているとの評価が得られました。



## 監査役会

### ● 監査役会の構成・活動

キッツの監査役会は、常勤監査役2名及び社外監査役3名の合計5名で構成しています。

常勤監査役は、キッツにおいて豊富な知見と経験を有する者から選任し、そのうち1名以上は財務・会計に精通している者としています。

社外監査役は、財務・会計・法務・経営などに相当程度精通している者の中から選任しています。

監査役は、取締役会等における業務執行に係る決定の局面において、公平かつ公正な経営の意思決定がなされるための有益な行動が特に期待されていることを自覚し、株主の利益ひいては会社の利益を斟酌し、必要に応じて、意見を述べるなど、期待される任務を果たしています。

また、取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況の監査を行っています。取締役会における取締役相互の経営監督機能の実効性の監視に加え、意思決定プロセスと決定内容の適法性・妥当性について監視している他、必要な意見の陳述を行っています。

監査役監査については、監査役監査基準、監査計画及び役割分担に従い、重要な会議への出席や事業所・子会社往査など調査権を行使して取締役の職務の執行を監

視し、善管注意義務等の法的義務の履行状況について検証するとともに、監査役会において必要な審議を行っています。

### ● 監査・監督機能の向上策

監査役会は、会計監査人及び内部監査室と定期的に「三様監査会合」を開催し、監査状況の報告を受け、情報及び意見交換を行い、緊密な連携を図っています。また、社外取締役、会計監査人及び内部監査室の四者で構成する「四様監査・監督会合」を定期的に開催し、独立した客観的な立場に基づく情報交換及び認識の共有を図り、監査役の監査機能と社外役員の監督機能の向上に努めています。

加えて、定期的に代表取締役との間で意見交換会を開催する他、業務執行取締役及び執行役員と経営上の課題について情報や意見を交換する機会を設けています。

## 指名委員会及び報酬委員会

キッツは、取締役会の任意の諮問機関として、過半数を社外取締役で構成する「指名委員会」と「報酬委員会」を設置しています。

「指名委員会」は「役員の選解任に関する方針」に基づき、取締役候補及び監査役候補並びに執行役員及び経営陣幹部の指名について、「報酬委員会」は取締役及び執行役員等の報酬方針やその内容に関する重要な事項についてそれぞれ審議を行い、その結果を取締役に答申しています。

## 独立役員

キッツの社外取締役及び社外監査役は、キッツが定める「社外役員の独立性の判断に関する基準」及び東京証券取引所が定める社外役員の独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所に独立役員の届出を行っています。

## 役員の選解任に関する方針

キッツは、「役員の選解任に関する方針」を定めており、ジェンダーや国際性の面を含め、人格、能力、識見、経験、専門性、実績、公正性及び年齢など多角的な観点から、取締役候補及び監査役候補の選定並びに執行役員及び経営陣幹部の選任を行っています。

## 会計監査人

キッツは、会計監査人として、EY新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人は、監査役会、経理部門及び内部監査部門などの関連部門と連携し、監査日程や監査体制の確保に努め、適正な監査を行っています。

会計監査人の候補の選任については、会計監査人の独立性、適格性及び専門性等並びに監査品質の適切性、妥当性、有効性、効果性、監査体制、監査計画及び監査報酬の妥当性等について評価し、監査役会の決議を経て、株主総会に付議することとしています。

## 政策保有株式に関する方針

キッツは、「政策保有株式に関する方針」を定めており、安定株主の形成等を目的とした政策保有株式は保有しないこととしています。しかし、当社の主たる事業であるバルブ事業は、素材から製品までの一貫した技術の総合力が試される事業であり、製品開発、製造、販売、物流等の全ての過程において、取引先との良好な協力関係を維持することが不可欠です。そのため、事業の円滑な推進を図る目的の限りにおいて、取引先の株式を保有することがあります。なお、「政策保有株式に関する方針」を有価証券報告書及びウェブサイトにおいて開示しています。

また、「政策保有株式に関する方針」に基づき、保有する政策保有株式の見直しを毎年行っており、保有する意義が乏しいと判断された株式の適宜売却を進める他、保有する株式であっても可能な限り縮減を進めることとしています。

さらに、保有する政策保有株式の議決権行使についても、「政策保有株式に関する方針」に基づき、発行会社が適切なガバナンス体制を構築し、中長期的な企業価値向上の増大につながる適切な意思決定を行っているかという観点の他、当社グループの企業価値向上の観点も踏まえ、総合的に賛否を判断しています。

## 株主及び投資家の皆様との対話

キッツは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには、経営の受託者としての説明責任を自覚し、株主・投資家等のステークホルダーに対し、適時・適切かつ公平な情報開示を行い、経営の公正と透明性を維持することが重要であると認識しています。また、株主・投資家の皆様に経営戦略や経営計画についてご理解いただけるよう、誠実かつ建設的な対話を行い、その対話によって得られた意見や要望を経営改善に活用しています。このようなIR活動を推進するため、IR部門を設置している他、代表取締役やIR担当執行役員を中心とするIRの体制を整備しています。

# 内部統制／コンプライアンス

## 内部統制の基本的考え方及び概要

キッツは、企業理念である「キッツ宣言」の実現に向けてグループの経営基盤を健全かつ強固なものにするため、「内部統制の基本方針」を定め、会社法及び会社法施行規則に基づく内部統制システムを構築しています。

また、内部統制システムの運用については、金融商品取引法及び企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定(意見書)」に示

されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備・運用しています。

内部統制の評価については、内部監査室が監査役及び会計監査人と緊密な連携を図り、全社的な内部統制の評価を行っています。その結果を踏まえ、財務報告に関わる重大な虚偽記載につながるリスクに着目して業務プロセスを選定しています。また、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、その要点の運用状況を評価することによ

て、内部統制の有効性に関する評価を行っています。キッツは、当該評価の結果、財務報告に係る内部統制は有効であると判断しています。

## コンプライアンス経営の推進

### ●コンプライアンス経営の基本的な考え方

キッツは、コンプライアンス経営を行うことは企業が永続的に発展するための基本かつ必須の条件であると認識しており、企業理念である「キッツ宣言」において、その「行動指針」の一つ目に「Do it True(誠実・真実)」を掲げています。

コンプライアンス意識の高揚と知識の向上を図るため、様々な取り組みを行う他、代表取締役社長を委員長とするC&C(クライシス及びコンプライアンス)管理委員会を2002年にキッツをはじめとするグループ全社に設置し、経営リスクの未然防止、危機対応及びコンプライアンス経営の徹底を図っています。

### ●コンプライアンス風土の醸成

キッツは、コンプライアンス経営の徹底を図るため、その重要性、基本方針、企業倫理行動規範、内部通報制度及び教育並びに違反者に対する懲罰等をプログラム化したグループ共通の「コンプライアンス・プログラム・ガイドブック」を作成し、キッツ及びグループ会社の役員・従業員に配布しています。また、各種テキストを作成し、教育セミナーを毎年計画的に開催しています。



国内外のグループ会社取締役を対象としたコンプライアンスセミナー

### ●内部通報制度の運用

キッツは、通常の内部統制システムやコンプライアンス体制において把握できない内部情報を収集するため、内部通報制度を整備し運用しています。これは、内部通報受付窓口として、C&C管理委員会がコンプライアンス・インフォメーション・デスク(通報窓口・社内名称「CID」)を設置し、キッツ及びグループ会社の役員・従業員から、コンプライアンス行動規範(法令遵守を含む)に違反する行為に関する情報を受け付けるものです。

CIDIは、グループ会社ごとに設置している他、グループ共通としてキッツ及び顧問弁護士事務所に設置しています。なお、C&C管理委員会は、通報情報について対応方針の審議・決定を行った後、通報者の秘密を保護しつつ、迅速かつ適切に調査及び措置を行っています。

## リスクマネジメント

キッツは、企業活動に伴う様々なリスクをコントロールすることは経営の重要な課題であると認識しています。そのため、事業活動における多種多様なリスクを的確に把握・分析し、リスクの顕在化を未然に防止・抑制する施策を検討し実施するとともに、危機発生に迅速かつ的確に対応するための体制整備にグループを挙げて取り組んでいます。

情報セキュリティeラーニング  
2018年度受講者数

1,710名

(グループ会社を含む)

各種コンプライアンスセミナー  
2018年度受講者数

616名

(グループ会社を含む)

# 社外取締役メッセージ



天羽 稔  
社外取締役

松本 和幸  
社外取締役

藤原 裕  
社外取締役

変化が速く激しい経営環境の中、持続性と新しいことへのチャレンジを大切にしなければならないと考えています。

松本 和幸  
社外取締役

2030年に向けたビジョンで、「キッツグループの目指す姿」が明確になり、その初年度となる2019年度、第4期中期経営計画がスタートしました。変化が速く激しい経営環境であるだけに、これまで以上に持続性と新しいことへのチャレンジを大切にしなければならないと思っています。そのためには、次世代を担う人財の発掘・採用と育成、次の成長につながるコア技術・コア製品の開発と事業化を着実に実践していかなければなりません。

その際に大事なことは、「何のために事業を行うのか」「誰のための事業なのか」「自社や自分たちの成長・強化につながるのか」を常に意識すること、顧客をはじめ、外部との接点を質的・量的にレベルアップすること、コミュニケーションを通して相互信頼・相互尊敬のチームであること、優

先順位に基づく資源の活用を図ること、マイナス情報も含めてスピーディーな情報伝達が当たり前であることだと思います。

また、「既存事業での持続的な利益ある成長への投資」とこれにより得られる収益を原資とする「次世代に向けた新たな事業への投資」とのバランスをとり、目標とのギャップが生じないようにフォローすることが、企業の永続性においても、長期にわたって社会的責任を果たすためにも、重要だと思っています。

そして、行動指針「Do it True」「Do it Now」「Do it New」に基づく迅速な判断と行動で、長期的なビジョンと第4期中期経営計画を実現していくことを期待します。



## 全てのステークホルダーに信頼していただけるよう、 社外取締役として引き続き努力してまいります。

### 天羽 稔

社外取締役

社外取締役の重要な役割は、異なる見方・考え方を提供すること、厳しい意志決定の後押しをすること、そして人材育成という観点から重要ポジションの後継者選定に貢献することだと思っています。社外取締役が効果的に機能するための運営上のポイントは、多くの情報を提供すること、事前の説明をすること、食事会のようなインフォーマルな場で直接会話する機会を持つこと、中長期戦略の意見交換の場を持つこと、そして工場・支店等の視察の機会を多く持つことではないかと考えます。また、取締役会の議題の選び方に関しても、社外取締役は付加価値を与えられるか、ということが必要だと思っています。

私は、2015年にキッツの社外取締役に就任しましたが、取締役会や工場の視察を通じて、非常に真摯にガバナンス体制を構築しており、経営の透明性及び客観性が確保できていると感じますし、中長期戦略においては、市場の変化を

積極的に捉え、持続ある成長を求め、常に企業価値の向上を目指していると評価しています。

昨今、コーポレート・ガバナンス改革が活発化していますが、重要なポイントが三つ挙げられると思います。一つ目は取締役・執行役員 の指名に関する基本ルールを尊重すること、二つ目はセキュリティプロテクション、三つ目は社外取締役を複数名選任することです(現在3名)。例えば社外取締役の指名に関して言えば、社長・会長と個人的な友好関係にないこと、役員報酬に固執したり保身に走ったりしないこと、そして社外取締役の経験があることなどがそれに当たります。

今後も持続ある成長を達成し、全てのステークホルダーに信頼していただけるよう、社外取締役として引き続き努力していききたいと思います。

## 忌憚のない意見や助言を行うことにより、 長期的な企業価値の向上に寄与してまいります。

### 藤原 裕

社外取締役

2015年にコーポレートガバナンス・コードが制定されましたが、その主たる目的は、経営陣による不正行為の防止、経営の透明性の確保、そして、長期的な企業価値の増大に向けた最適な企業統治体制構築の推進です。その最重要のコンセプトは「監督と執行の分離」であると理解しています。つまり、株主から企業経営の監督を委任されているのが取締役会、その取締役会から業務の執行を任されているのが社長以下の執行役員という、明確な監督と執行の役割分担が求められているのです。しかし日本企業の多くの取締役会は、執行責任者を兼ねる社内取締役が大多数を占めているのが現実で、これではなかなか監督と執行の分離は実現できません。

これに対し当社は、取締役7名のうち3名が、当社とは全く利害関係のない完全独立社外取締役です。この社外取締役の構成比率、そしてその完全な独立性は、約3,500社の

上場企業の中でもガバナンス体制の面では先進的な一社ではないかと思っています。さらに当社では、この取締役会の実効性を高めるため、監査役会設置会社でありながら、社外取締役が過半を占める指名委員会と報酬委員会を設置し、役員人事とその報酬の透明性を確保しています。また、取締役会での決議案件については必要に応じ十分な事前説明があり、それが取締役会での率直で生産的な議論につながっているものと思います。

私たち独立社外取締役の責務は、この整備されたガバナンス体制の実効性を高めるために、株主あるいはその他のステークホルダーの視点を常に持ち続け、忌憚のない意見や助言を行うことにより、長期的な企業価値の向上に寄与することだと肝に銘じ、今後も努力していききたいと思います。

# ステークホルダーとの対話

キッツは、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーとの信頼関係を築くため、様々な活動を通して直接の対話機会を設けています。建設的な対話によって得られた意見や要望を経営陣にフィードバックし、経営効率の改善や透明性の向上に反映させています。

## 株主との対話

定時株主総会招集通知については、法定期限よりも早めて発送するとともに、発送に先立ってその内容をウェブサイトに掲載するなど、早期の情報開示に努めています。また、英語版をウェブサイトに掲載している他、株主様の利便性向上のため、インターネット等により議決権行使ができる体制を整えています。



## 投資家との対話

機関投資家、アナリスト向けの決算説明会を四半期ごとに年4回開催し、社長及び担当役員が業績や中長期戦略について説明しています。また、より多くの方にキッツのファン(株主)になっていただくことを目的に、個人投資家向けの説明会を年に複数回開催しています。

ウェブサイトや株主通信によるタイムリーな情報発信の他、株主優待の充実にも努めています。



## お客様との対話

キッツグループの商品をより広く紹介するため、国内外の展示会に積極的に出展し、ブースを訪れたお客様からの質問にお答えしています。



## ビジネスパートナーとの対話

国内総合代理店社長会を年に1回開催しています。相互理解を促進し、代理店との連携をさらに深めています。

## 社員との対話

社長をはじめとする経営陣が、積極的に製造現場を訪れ、工場の社員とのコミュニケーションにより相互理解を深めています。また、国内事業所において社内決算説明会を実施。業績や中長期戦略について分かりやすく解説しています。

毎月発行する社内報「Monthly KITZ News Letter」には、事業所のニュースやトピックスに加え、社長メッセージや経営陣のコメントを載せて、イントラネットで配信しています。



# 環境活動

キッツは、キッツグループ環境理念及び環境行動方針に基づき、環境保全に向けた活動を推進しています。

## キッツグループ環境理念

キッツグループは、環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動の推進により、社会から信頼される企業を目指します。

## キッツグループ環境行動方針

環境を経営の重要な視点として意識し、一人ひとりの社員が次の施策に積極的に取り組みます。

1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供
2. 資源の有効活用
3. 廃棄物の削減と再利用・再利用の推進
4. 環境汚染の防止・予防

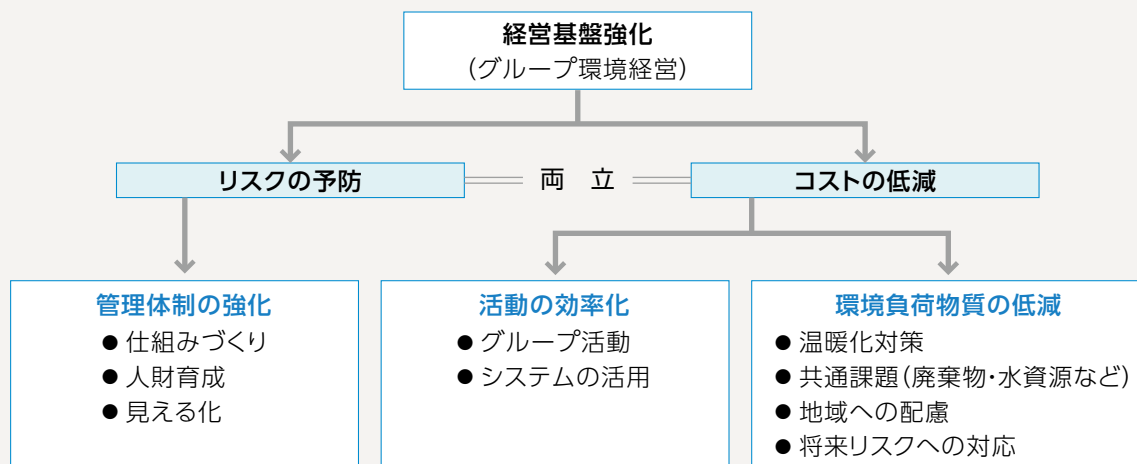
### 目標設定項目

#### CO<sub>2</sub>排出量

CO<sub>2</sub>排出量原単位 (t-CO<sub>2</sub>/億円) を2020年度に2013年度比10%削減  
(原単位：2013年度 58.81→2020年度 52.71)

### 環境経営の考え方と取り組み

上記の理念・行動方針に基づき、リスクの予防とコストの低減の両立をベースに活動する。これらの両立は、積極的な環境保全活動により土壌汚染などの環境リスクを未然に防ぎ、将来発生しうる費用を抑えること、また、事業活動で排出される廃棄物の徹底的な削減がコストの削減につながり、広く社会に還元できるという考え方に基づく。



## 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供

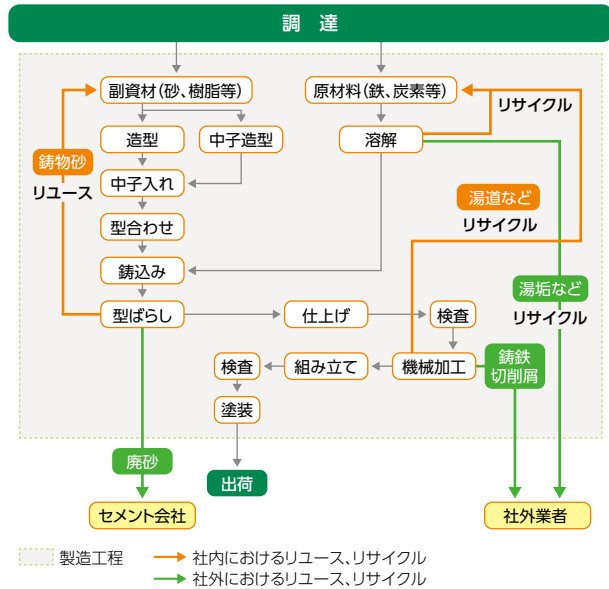
独自の環境開発方針及び環境負荷低減ガイドラインを制定し、中長期的な視点に基づいて、環境負荷の少ない商品開発に取り組んでいます。



## 資源の有効活用

バルブは、自然資源である金属素材を主要材料としています。キットでは、一度使用された金属製品のスクラップを原材料の一部として使用する他、長年培ったノウハウを活かし、製造工程で発生する端材や切粉(切削屑)を原材料として還元するよう努めています。また、鑄造工程で使われる鑄物砂については、砂処理工程において、塊を砕いたり、ふるいで分別したりするなどの処理を経て再利用しています。繰り返し使用された鑄物砂は、基準粒径より小さくなると廃棄物となりますが、廃棄された鑄物砂はセメントの補助材として利用されます。キットでは、地球環境との共存を目指し、限りある資源の有効活用を推進しています。

## 鑄鉄製バルブの省資源化の流れ

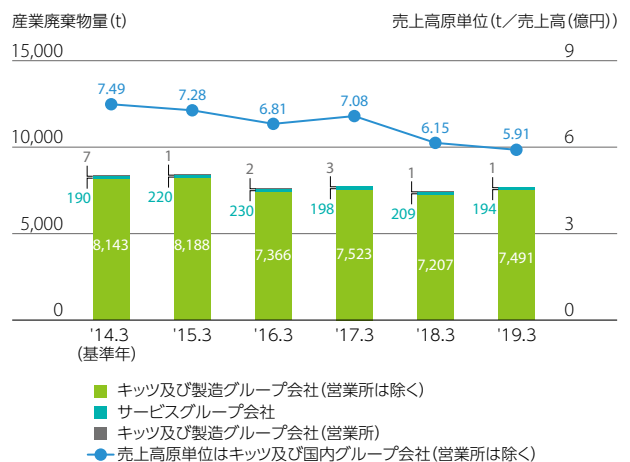


## 廃棄物の削減と再使用・再利用の推進

リデュース(廃棄物を出さない・持ち込まない)、リユース(再生が可能な廃棄物は再生ラインに戻す)、リサイクル(分別し再資源化する)、再利用できないものについては「適正に処分する」ことに取り組んでいます。廃棄物の分別を徹底し、有価物化を推進することにより、廃棄物発生量の抑制につなげています。

キットグループの生産活動から出る廃棄物の多くを占める産業廃棄物については、生産部門において、発生量の調査・分析をもとに、削減及び再利用化に取り組んでいます。また、キットグループの環境・安全についての情報を管理する「廃棄物管理システム」により、産業廃棄物の発生から最

## 産業廃棄物量の推移





詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.kitz.co.jp/environment/>

終処分までの工程をタイムリーに把握し、グループ内で共有しています。システムにおいて廃棄物の処分ルートがあらかじめ決められており、委託契約したルート以外では処分することができない仕組みを構築しています。

### 環境汚染の防止・予防

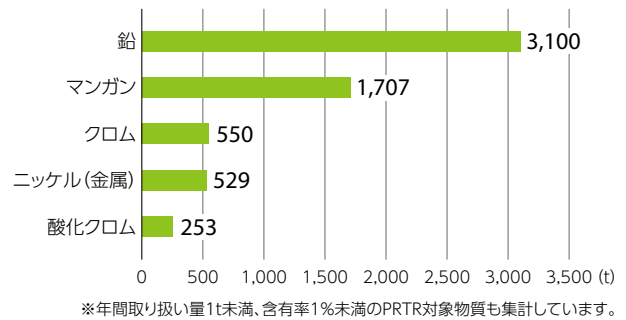
バルブの原料である金属材料や鋳物砂には、PRTR対象物質\*である、鉛、マンガン、クロム、ニッケル、酸化クロムが多く含まれています。大気に排出される主な物質は、塗料、シンナーや貯蔵ガソリンから発生するキシレン、トルエン、外部に移動する主な物質は、鋳物砂に含まれる酸化クロムが挙げられます。

キットでは、PRTR対象物質\*の他、化成品に含まれている危険・有害物質による環境汚染を回避するために、「化学

物質管理システム」を2000年に構築。有害物質を含有する化成品の特定や代替化を進め、バルブ製品の安全性向上と環境負荷低減を図っています。

※「人の健康や生態系に悪影響を及ぼすおそれがある」、「自然の状況で化学変化を起こし容易に有害な化学物質を生成する」、「オゾン層破壊物質」のいずれかの有害性の条件に当てはまり、かつ環境中に広く継続的に存在すると認められる物質。

#### PRTR対象物質使用量(上位5種)



### 燃料電池フォークリフトを導入

キットでは、2012年9月より、水素ステーション用超高压ボールバルブをはじめとする「KITZ CLESTECシリーズ」を販売しています。また、2018年4月には、長坂工場に小型パッケージユニットを用いた水素ステーションを建設し、その実証を通じて、今後のバルブ開発のための技術蓄積を行っています。

燃料電池自動車についても、すでに3台を社用車として活用していますが、2019年2月、新たに燃料電池フォークリフトを長坂工場に導入しました。使用時に排出されるCO<sub>2</sub>がゼロであり、環境負荷低減に寄与しています。



### オフィス製紙機を導入

2019年3月、茅野工場にオフィス製紙機を設置し、稼働を開始しました。使用済みの紙から新たな紙を生産できる本機の導入により、コピー用紙の購入及び書類の廃棄にかかる回収・運搬などのコストが大幅に削減できる他、社内で機密文書を完全に抹消することが可能となるため、情報漏洩リスクも低減させることができます。また、紙を作る際に使用されるバージンパルプ材の使用量削減及び輸送により発生するCO<sub>2</sub>・排気ガスの排出量や化石燃料の使用量の削減など、環境負荷の低減にも貢献することが期待されます。

持続可能な社会の実現に貢献していくため、引き続き、地域環境の保全や地球環境問題の課題解決につながる活動に積極的に取り組んでまいります。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キットグループのESG

データ編

# 人財を支える取り組み

キッツは、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、様々な取り組みを進めています。

## 目指す人財像

キッツの行動指針の一つ目に「Do it True(誠実・真実)」があります。誠実であること、真面目であること、そして、社会のルールや倫理に反しないこと。これは、キッツグループが最も大切にしている価値観であり、キッツの良き社風でもあります。

これに続く行動指針が「Do it Now(スピード・タイムリー)」「Do it New(創造力・チャレンジ)」。これまで以上のスピードで事業を展開し、目まぐるしく変化する市場の要求に応えていくためには、従来の殻を破る発想や行動力が求められます。秘められた創造力を自ら発揮し、新しいことに果敢にチャレンジするプロフェッショナル集団を目指しています。



## 人財育成についての考え方

キッツは、「個人能力の発揮」と「組織能力の発揮」を両輪に、人財の育成に取り組んでいます。階層別教育を柱に、職掌・職種別専門教育、特別選抜教育などの人財育成プログラムを充実させています。また、「チャレンジ目標制度」を運用し、「育成」を「評価」と「処遇」に連動させることにより、高いモチベーションを保つことができる企業風土を醸成しています。

### ●若手社員の基礎力向上

新卒採用者は、4月の入社式終了後から、本社及び研修センターにおける、社会人としてのマナーや仕事の基本

に関する導入研修を経て、その後、工場での実習を含む新入社員研修で、バルブに関する基礎知識、キッツ社員としての行動や考え方の基本を学びます。技術職として採用された社員については、さらに1年かけて、設計、機械加工、鋳造などの基礎を学び、モノづくりの基本を十分に身に付けてから正式配属となります。

配属後は、新入社員1名に対し、任命された先輩社員が個別支援を行う「メンター制度」により、若手社員のキャリア形成上の課題解決を援助し、成長を支える仕組みを取り入れています。

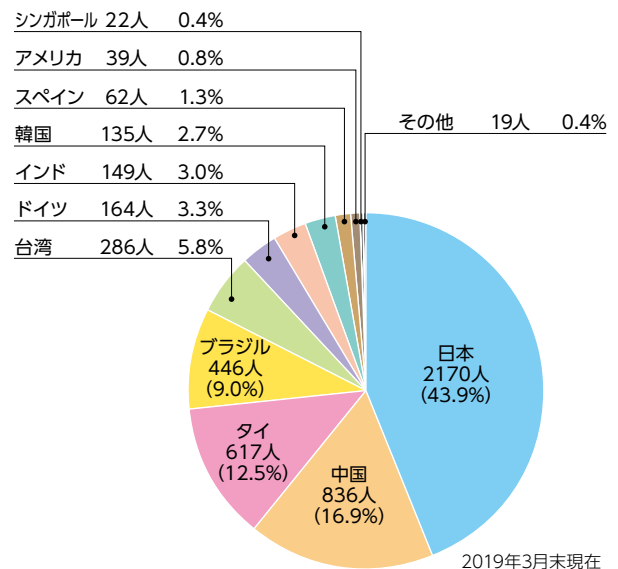
### ●選抜社員への語学教育

選抜した若手社員に対する語学教育にも力を入れています。海外での技術指導や打ち合わせ、学会での発表などの場で、スムーズなコミュニケーションが図れるよう、継続的に語学力向上に向けた取り組みを行っています。

### ●グローバル化を推進

1984年にアメリカに販売会社を設立して以降、生産拠点、販売拠点を海外に順次設立するとともに、スペイン、ド

## 国別人員構成



イ、インド、ブラジル及び韓国のバルブメーカーをM&Aによってグループに加えるなど、グローバルに事業を展開しています。現在、キックグループの拠点は18カ国、日本以外の国で勤務する社員(出向者を含む)は、全体の56.1%を占めるまでになりました(2019年3月末現在)。

## ダイバーシティへの取り組み

キックは、社員を会社の財産(人財)と考え、性別、年齢、国籍にとらわれず、社員一人ひとりが最大限に力を発揮することができる環境づくりに取り組んでいます。

### ●人事制度の改革

「強い風土・組織づくり」と「真のグローバル企業」の実現のため、他社に負けない業務専門性を持ったプロフェッショナル集団となることを目指して、新たな人事制度に移行しました。

業務経験を通じ、高度な専門的スキル・知識を身に付けてそれを発揮する「エキスパート職」と、新しい付加価値を創造して、グローバルに活躍する経営層や、業界をリードする専門職を目指す「グローバル職」を、社員が自分自身のキャリアプランにより選択します。

個人のライフステージの変化に応じてコースを変更できるなど、誰もが挑戦する機会を持つことができ、働きがいを感じながら成長するための制度となっています。

### ●企業風土・意識の変革

創業からの伝統を守りながら、多様な人財が認められるよう、「今までのやり方が当たり前」から、「常に新しい方法を」という考え方に、意識の変革を促すための取り組みを行っています。



その一つとして、外部の有識者による、社員向けの講演会を実施しています。ダイバーシティ推進やキャリア開発など、様々なテーマの講演は、社員の意識変革や企業風土改革の一助となっています。

## ワーク・ライフ・バランスを支える制度の拡充

社員一人ひとりが高いモチベーションと充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たして企業人としてのキャリアを積むとともに、子育てや介護など、個人のライフステージの変化に応じて、多様で柔軟な働き方を選択することにより、その力を十分に発揮できるよう、キックでは、ワーク・ライフ・バランスの充実に取り組んでいます。

その一つとして、育児に関する制度を拡充し、社員の育児と仕事の両立を後押しする環境を整えています。

### ●育児短時間勤務の適用時期延長

育児のために所定労働時間を短縮して働く育児短時間勤務。従来は、子どもが3歳未満までの適用でしたが、小学校就学前まで期間を延長しました。

### ●育児休業期間の延長

育児休業は、最大で子どもが1歳に到達後の3月末日または1歳6ヵ月に達する日の前日までの期間の取得が可能でしたが、保育所への入所ができないなどの理由がある場合には、2歳に達する日まで延長できるようになりました。

### ●中途退職者 リエントリー制度の導入

出産・育児、介護及び配偶者転勤のいずれかの理由で退職した社員が、事前に登録しておくことで復職が可能になる制度です。退職した社員にとっては、在職中に身に付け発揮していたキャリアを、もう一度、会社で有効に活かすことができ、また、会社にとっては、新たに社会人採用(中途採用)をするよりも、教育研修の負担を軽減できるなどのメリットが期待できます。

その他、有給休暇の時間単位での取得、積立有給休暇を育児・介護休業に充当できる仕組みなど、働きやすい環境づくりを進めています。



# 多様な人財がキッツグループを支える

それぞれの現場で価値創造に取り組む姿を紹介します。

キッツにはグローバルで活躍できるチャンスがあります。

Roderick Andal Perez

株式会社キッツ カスタマー技術部 エンジニアリンググループ



キッツの社員は皆が一生懸命に働き、お互いを尊重し合っています。優しい同僚と良い環境のおかげで、毎日、気持ち良く働くことができます。キッツで働くということは、グローバルで活躍できるチャンスがあるということでもあります。

自分の経験を伝えることで、他の社員の成長に役立ちたいと思います。

Maria Luisa Ribas Steegmann

KITZ Corporation of Europe, S.A.  
Managing Director & President



キッツグループは私を信頼し、グループの1社の経営を任せてられています。この10年で、私はプロフェッショナルとして成長し、専門以外の分野にも視野を広げることができました。この経験を他の社員にも伝えていくことで、彼らの成長に役立ちたいと考えています。

これまでの経験を活かし新しいテーマにチャレンジしていきます。

岡部 由紀子

株式会社キッツ サステナビリティ推進室長

2019年7月に新設された部門を任されることとなりました。広報部門や人事部門での経験を活かし、第4期中期経営計画の重要テーマであるESGに関する課題に取り組み、次世代に遺せる未来創造の一翼を担っていきたいと思います。



キッツグループの同志とともに、新たな挑戦に向き合える喜びを感じています。

高木 隆

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.  
Managing Director

「キッツ宣言」という共通の理念を持った同志とともに、新たな挑戦に向き合える喜びを感じています。私たちの活動によりグローバル市場でさらに強い企業に進化できるよう、そして社会への貢献につながるよう、チャレンジを続けてまいります。



キッツグループ発展のための技術の開発にやりがいを感じています。

吉良 直樹

株式会社キッツ 生産技術センター 技術研究グループ



バルブの自動生産設備の開発・導入を担当しています。入社以来、様々な技術を学び、イメージを形にできるようになりました。キッツグループが、今後さらに発展するために必要な技術を、自ら開発できるようにやりがいを感じています。

細やかな対応でキッツファンを増やしていきたいです。

鈴木 豊子

株式会社キッツ 東京支社 営業事務グループ長



内勤業務のため、お客様と直接お会いする機会が少ない分、お礼の言葉をいただけることが何よりも励みになります。「次回もあなた(=キッツ)から買おうよ」と言っていただけのようにバルブの知識をさらに深め、細やかな対応でキッツファンを増やしていきたいです。



ブラジルでさらに鑄造の経験を積み、さらなるスキルアップを目指します。

佐藤 芳樹

Metalúrgica Golden Art's Ltda.  
MTA Foundry Factory Chief Production Engineer



入社以来、製造の要である鑄造に携わっており、M&Aによりグループに加わったブラジルのバルブメーカーの鑄造工場を2016年から担当しています。ここで、さらに経験を積んでキッツグループに貢献できるスキルを身に付けたいですね。

二つの異なる文化の橋渡し役にやりがいを感じています。

美田 静佳

KITZ Corporation of America  
Chief Accounting Officer



米国の販売会社で経理の責任者を任されています。私は英語と日本語の両方を理解できるので、キッツとの橋渡し役をする場面も多くあります。二つの異なる文化の間で、お互いを正しく理解することはとても重要であり、これは私の仕事の中で最も困難なことですが、やりがいを感じています。

これからも人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。

下山 牧子

株式会社キッツエスシーティー 管理部 総務経理課

育児休業を取得し、職場復帰して仕事を続けています。理解ある上司、仲間に恵まれ、子育てと仕事を両立しながら、楽しく働くことができます。これからも「感謝の気持ち」、「向上心」、「笑顔」を忘れず、人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。



バルブに対する好奇心は尽きることがありません。

石井 友晴

株式会社キッツ プロダクトマネジメントセンター PCA事業推進部長

重点市場分野攻略のための戦略立案と新製品の市場投入に携わっています。提携企業、調達先からユーザーまで、キッツに関わる多くの方々に幸せを感じてもらえるように、日々努力しています。

バルブは様々な産業で使われ、また、多くの技術が集積しており、好奇心が尽きることがありません。



上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。

石原 祐樹

株式会社キッツ 海外事業推進部



私は入社して1年半足らずで、台湾エリアのお客様を1人で担当することになりました。その時の、上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。私たちの競争相手は「世界」にいます。競合メーカーよりもクリエイティブな、世界で通用する営業マンを目指します。

やる気次第で自分の可能性を広げていくことができます。

白木 祥子

株式会社キッツ プロジェクト設計部 プロジェクト設計グループ



キッツには「女性だから」という否定的な考えはありません。やる気次第で、性別・年齢にとらわれることなく活躍できます。自分の可能性をもっと広げ、自分の力を社会に還元し貢献していきたいと思っています。

# 社会貢献活動

キッツは、地域振興(地域貢献)、環境保全、社会・国際貢献及び文化振興を活動分野として様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

## 九十九里海岸保安林の再生活動

「特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所」と協働し、東日本大震災の津波により被害を受けた千葉県山武市・蓮沼殿下海岸(九十九里海岸)の保安林を再生する活動を行っています。



## 里山再生～オオムラサキの森づくり

長坂工場が所在する山梨県北杜市のシンボル 国蝶「オオムラサキ」が棲める里山の再生を目指し、「特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会」が主催する植樹活動に参加しています。

## 日本障害者パラアルペンスキーチームを支援

オフィシャルスポンサーとして日本障害者スキー連盟 パラアルペンスキーチームを応援しています。パラリンピックやワールドカップなど世界の大会で活躍できるよう選手を育成し、また、スキーを通して心身ともに自らの障がい克服し社会参加ができることを目的としています。



## TABLE FOR TWOプログラムに参加

開発途上国の飢餓と、先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む活動を社員食堂に導入しています。ヘルシーメニューを社員が食べることで、その価格に含まれる1食につき20円の寄付金が、アフリカの開発途上国の学校給食事業の支援に役立てられています。



写真提供: TABLE FOR TWO

## 北澤美術館の活動を支援

諏訪湖畔に位置する北澤美術館の活動を支援しています。創業者 北澤利男が、地域文化の振興と発展に寄与することを目的として1983年に財団法人北澤美術館として開館。2013年には公益財団法人となりました。

19世紀末フランスのアール・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外から高く評価されています。



地域社会との関わり – 事業所地域のスポーツ振興 –

山梨県に長坂工場が、また、長野県には伊那工場と茅野工場の他、キッツグループの多くの事業所が所在しています。キッツは、これらの地域の子どもたちの育成に力を入れている地元のプロスポーツチームを支援しています。

2013年よりサッカーJ2リーグのヴァンフォーレ甲府(山梨県甲府市)、2018年よりJ1リーグの松本山雅FC(長野県松本市)及びバレーボールV1リーグのVC長野トライデンツ(長野県上伊那郡)への支援を通して、地域の振興と子どもたちの健全な育成、スポーツ文化の発展に貢献する活動を行っています。



ヴァンフォーレ甲府

育成組織であるアカデミー(U-18以下)のユニフォームスポンサーとしてサポートしています。



松本山雅FC

少女を対象としたサッカーイベントに協賛する「ヤマガールズパートナー」として支援している他、ホームスタジアムであるサンプロ アルウィンのバックスタンド側 車椅子席に、社名が入ったスタジアムバナー(横断幕)を掲出しています。



VC長野トライデンツ

2018-19シーズンのユニフォームの背中(裾)にロゴを掲出しています。また、VC長野トライデンツ主催で行われてきた長野県南信地区の中学生バレーボール大会の「冠スポンサー」となり、新たに「キッツカップ」として開催しました。



その他、伊那工場が所在する長野県伊那市で開催され、日本全国から強豪校が参加する春の高校伊那駅伝や、諏訪市で開催される諏訪湖マラソンに毎年協賛するなど、事業所地域のスポーツ振興のための活動を継続しています。



# 主要財務データ

	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
<b>会計年度</b>				
売上高合計	127,095	96,592	106,059	108,446
国内	100,001	76,403	82,120	82,974
海外	27,094	20,188	23,938	25,472
バルブ事業	89,627	70,611	76,098	78,976
伸銅品事業	28,247	16,218	20,230	20,065
その他	9,220	9,762	9,729	9,404
営業利益	7,188	6,976	6,341	4,638
経常利益	6,475	6,248	5,929	4,388
親会社株主に帰属する当期純利益	3,396	3,079	3,063	2,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,101	13,285	5,818	2,217
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,945	△ 4,525	△ 2,907	△ 2,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,470	△ 9,291	375	△ 6,638

## 会計年度末

流動資産	51,030	47,421	52,036	47,247
固定資産	50,071	50,112	48,101	47,734
資産合計	101,101	97,533	100,138	94,981
流動負債	27,712	18,070	26,521	20,182
固定負債	22,476	25,616	20,184	20,309
負債合計	50,189	43,686	46,705	40,491
純資産合計	50,912	53,847	53,433	54,489
有利子負債	35,860	27,555	30,165	24,290
期末株価(円)	299	545	400	360

## 1株当たり情報

EPS(1株当たり当期純利益)	30.02	27.23	27.36	22.71
BPS(1株当たり純資産)	442.44	468.31	480.88	490.65
1株当たり配当金	9.00	7.00	7.00	7.50

## 財務比率(%)

営業利益率	5.7	7.2	6.0	4.3
ROE(自己資本当期純利益率)	6.6	6.0	5.8	4.7
ROA(総資産経常利益率)	6.2	6.3	6.0	4.5
自己資本比率	49.5	54.3	52.5	56.4
配当性向	30.0	25.7	25.6	33.0
連結総還元性向	30.0	25.7	74.1	33.0

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を2019年3月期の期首から適用しており、本冊子の2018年3月期においても当該会計基準を遡って適用した後の数値となっています。



2013年3月期      2014年3月期      2015年3月期      2016年3月期      2017年3月期      2018年3月期      **2019年3月期**

(単位：百万円)

111,275	117,355	117,036	117,278	114,101	124,566	<b>136,637</b>
81,509	84,970	81,983	80,127	80,207	89,756	<b>95,209</b>
29,765	32,384	35,052	37,151	33,893	34,809	<b>41,428</b>
84,472	87,888	90,152	93,579	91,766	98,162	<b>109,969</b>
17,948	20,953	21,021	20,557	19,333	23,535	<b>23,643</b>
8,855	8,514	5,863	3,141	3,002	2,867	<b>3,025</b>
6,558	6,470	6,886	7,245	8,929	10,117	<b>11,713</b>
6,521	6,501	7,581	7,300	8,799	9,733	<b>11,883</b>
4,039	3,564	6,881	4,915	5,400	6,518	<b>5,625</b>
7,885	4,667	8,923	9,592	12,979	6,941	<b>10,069</b>
△ 4,519	△ 3,546	△ 1,010	△ 9,763	△ 2,141	△ 7,066	<b>△ 9,264</b>
△ 3,213	66	△ 3,706	796	△ 6,838	5,267	<b>△ 9,702</b>

(単位：百万円)

49,956	55,866	63,884	63,501	67,972	77,400	<b>71,226</b>
50,016	51,717	51,905	55,920	51,175	56,145	<b>60,430</b>
99,972	107,583	115,790	119,422	119,148	133,545	<b>131,657</b>
21,149	20,703	25,740	19,040	19,608	24,078	<b>22,227</b>
18,603	20,101	14,556	24,284	24,647	32,075	<b>32,600</b>
39,752	40,805	40,296	43,325	44,255	56,154	<b>54,827</b>
60,219	66,777	75,493	76,096	74,892	77,391	<b>76,829</b>
22,319	23,728	21,426	25,008	24,787	34,302	<b>33,457</b>
472	505	594	487	742	914	<b>811</b>

(単位：円)

36.98	32.63	63.22	45.50	51.43	65.50	<b>58.50</b>
542.41	601.56	686.47	700.17	727.78	782.98	<b>793.74</b>
9.50	10.00	13.00	13.00	13.00	17.00	<b>20.00</b>
5.9	5.5	5.9	6.2	7.8	8.1	<b>8.6</b>
7.2	5.7	9.8	6.6	7.3	8.7	<b>7.4</b>
6.7	6.3	6.8	6.2	7.4	7.7	<b>9.0</b>
59.3	61.1	64.2	62.9	61.9	57.1	<b>57.4</b>
25.7	30.6	20.6	28.6	25.3	26.0	<b>34.2</b>
25.7	30.6	27.6	38.8	92.5	80.0	<b>70.1</b>

ステークホルダーの皆様へ

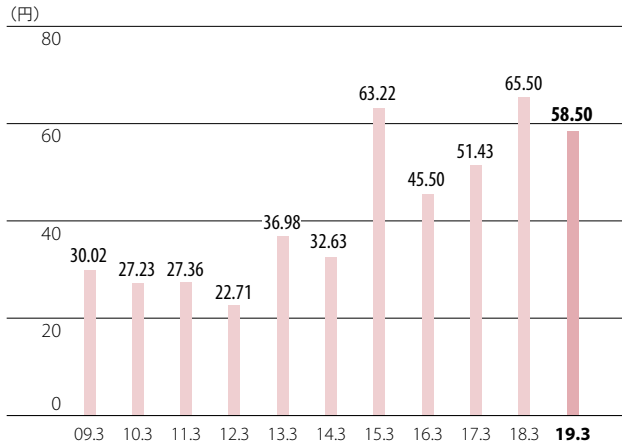
事業の概要と戦略

キックグループのESG

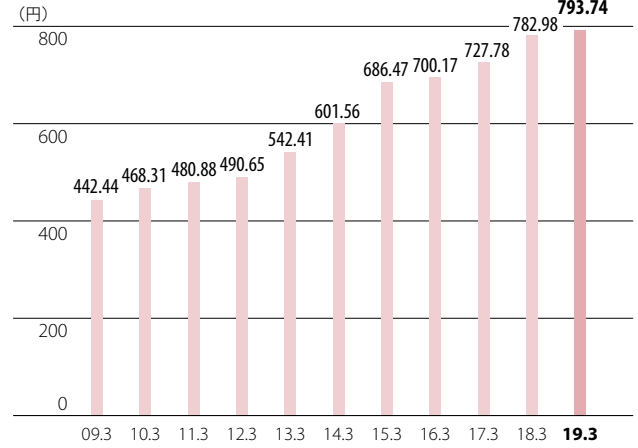
データ編

## 主要財務データ

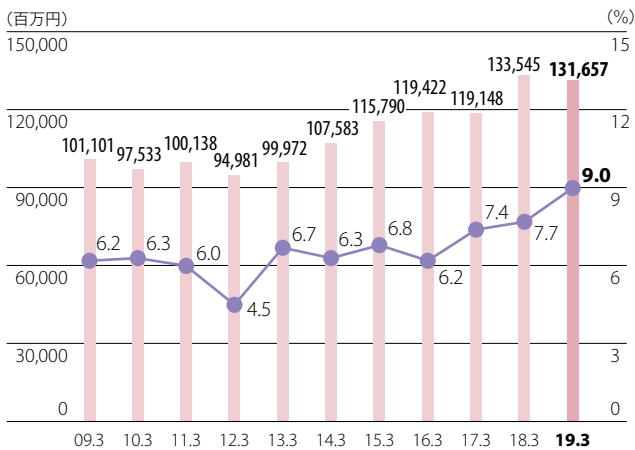
### ● EPS (1株当たり当期純利益)



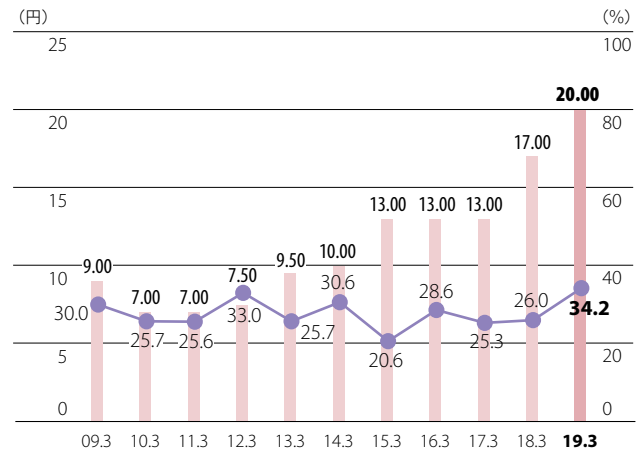
### ● BPS (1株当たり純資産)



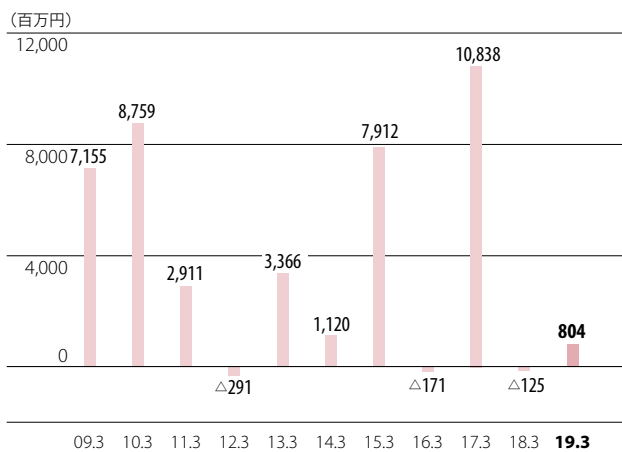
### ● 総資産 / ROA (総資産経常利益率)



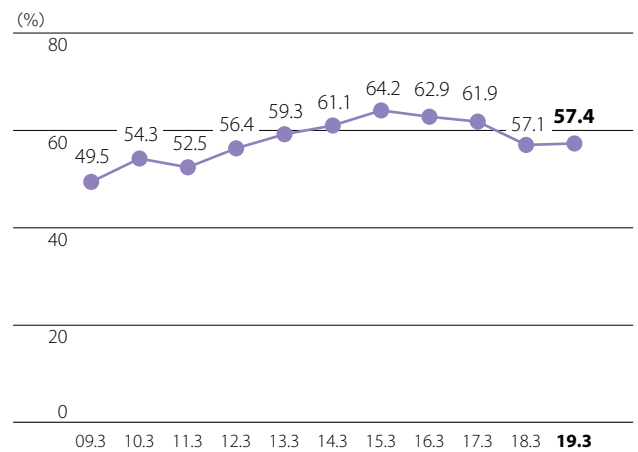
### ● 1株当たり配当金 / 配当性向



### ● フリーキャッシュ・フロー



### ● 自己資本比率



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	18,181	23,429	13,660
受取手形及び売掛金	18,620	20,040	19,484
電子記録債権	7,272	9,264	10,715
商品及び製品	8,282	8,845	10,282
仕掛品	4,692	5,651	5,683
原材料及び貯蔵品	6,963	7,657	8,500
その他	2,803	2,597	3,054
貸倒引当金	△68	△88	△153
<b>流動資産合計</b>	<b>67,972</b>	<b>77,400</b>	<b>71,226</b>
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建物及び構築物	8,310	9,035	10,199
機械装置及び運搬具	10,008	10,662	11,642
工具、器具及び備品	5,274	5,329	5,307
土地	9,812	9,885	10,500
建設仮勘定	1,064	1,611	3,807
その他	251	273	220
<b>有形固定資産合計</b>	<b>34,722</b>	<b>36,799</b>	<b>41,677</b>
<b>無形固定資産</b>			
のれん	2,323	1,481	887
ソフトウェア仮勘定	2,404	5,257	6,599
その他	2,152	2,212	1,933
<b>無形固定資産合計</b>	<b>6,881</b>	<b>8,951</b>	<b>9,420</b>
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券	6,108	6,247	4,943
退職給付に係る資産	174	167	326
繰延税金資産	127	980	1,316
その他	3,163	3,038	2,748
貸倒引当金	△3	△39	△2
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>9,571</b>	<b>10,394</b>	<b>9,332</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>51,175</b>	<b>56,145</b>	<b>60,430</b>
<b>資産合計</b>	<b>119,148</b>	<b>133,545</b>	<b>131,657</b>
			(単位：百万円)
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
買掛金	6,138	7,098	6,625
1年内償還予定の社債	904	844	774
短期借入金	1,496	1,347	1,220
1年内返済予定の長期借入金	2,452	3,888	2,521
未払法人税等	1,459	2,615	1,434
未払消費税等	553	211	535
賞与引当金	2,068	2,318	2,529
役員賞与引当金	163	180	206
その他	4,370	5,573	6,379
<b>流動負債合計</b>	<b>19,608</b>	<b>24,078</b>	<b>22,227</b>
<b>固定負債</b>			
社債	13,523	22,678	21,904
長期借入金	6,410	5,543	7,037
繰延税金負債	1,164	833	807
役員退職慰労引当金	352	377	362
役員株式給付引当金	36	79	124
退職給付に係る負債	413	444	749
資産除去債務	441	402	408
その他	2,305	1,716	1,207
<b>固定負債合計</b>	<b>24,647</b>	<b>32,075</b>	<b>32,600</b>
<b>負債合計</b>	<b>44,255</b>	<b>56,154</b>	<b>54,827</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	21,207	21,207	21,207
資本剰余金	5,743	5,674	5,674
利益剰余金	49,138	47,679	51,562
自己株式	△5,042	△2,004	△4,032
<b>株主資本合計</b>	<b>71,046</b>	<b>72,556</b>	<b>74,411</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>			
その他有価証券評価差額金	1,972	2,279	1,333
為替換算調整勘定	567	1,291	△254
退職給付に係る調整累計額	204	89	107
その他の包括利益累計額合計	2,744	3,660	1,185
非支配株主持分	1,101	1,173	1,232
<b>純資産合計</b>	<b>74,892</b>	<b>77,391</b>	<b>76,829</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>119,148</b>	<b>133,545</b>	<b>131,657</b>

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キックグループのESG

データ編

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	114,101	124,566	136,637
売上原価	82,405	90,459	98,188
売上総利益	31,696	34,106	38,449
販売費及び一般管理費	22,767	23,989	26,735
営業利益	8,929	10,117	11,713
営業外収益			
受取利息	97	92	67
受取配当金	211	139	138
保険収入	133	136	173
為替差益	-	-	122
雑益	326	424	513
営業外収益合計	768	793	1,017
営業外費用			
支払利息	234	226	252
売上割引	376	382	415
手形売却損	23	15	24
為替差損	19	208	-
雑損失	244	344	154
営業外費用合計	898	1,177	847
経常利益	8,799	9,733	11,883
特別利益			
有形固定資産売却益	14	12	11
投資有価証券売却益	2,097	869	0
その他	40	1	1
特別利益合計	2,152	883	12
特別損失			
有形固定資産売却及び除却損	141	87	104
減損損失	3,756	386	2,675
その他	27	28	7
特別損失合計	3,925	502	2,787
税金等調整前当期純利益	7,025	10,114	9,108
法人税、住民税及び事業税	2,370	3,586	3,312
過年度法人税等	△622	-	-
法人税等調整額	△238	△72	33
法人税等合計	1,509	3,513	3,345
当期純利益	5,515	6,601	5,762
非支配株主に帰属する当期純利益	115	82	136
親会社株主に帰属する当期純利益	5,400	6,518	5,625

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
当期純利益	5,515	6,601	5,762
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	△772	307	△946
為替換算調整勘定	△670	767	△1,558
退職給付に係る調整額	△23	△114	17
その他の包括利益合計	△1,466	959	△2,487
包括利益	4,048	7,560	3,275
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	3,950	7,434	3,150
非支配株主に係る包括利益	98	125	124



## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税金等調整前当期純利益	7,025	10,114	9,108
減価償却費	4,148	4,297	4,636
のれん償却額	438	464	414
為替差損益(△は益)	37	15	61
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,082	△869	△0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4	57	△31
賞与引当金の増減額(△は減少)	382	242	224
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△62	△138	45
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	30	17	△82
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	36	51	44
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△1	16	26
受取利息及び受取配当金	△308	△232	△206
支払利息	234	226	252
有形固定資産売却・除却損益(△は益)	127	74	93
減損損失	3,756	386	2,675
売上債権の増減額(△は増加)	△673	△3,110	△767
たな卸資産の増減額(△は増加)	677	△1,961	△2,404
その他の流動資産の増減額(△は増加)	60	△980	498
仕入債務の増減額(△は減少)	△61	781	△340
その他の流動負債の増減額(△は減少)	843	△5	739
その他	△76	△472	△411
小計	14,526	8,973	14,577
利息及び配当金の受取額	316	232	206
利息の支払額	△211	△224	△249
法人税等の支払額	△1,938	△2,297	△4,464
法人税等の還付額	286	256	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,979	6,941	10,069
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△4,476	△5,149	△7,597
有形固定資産の売却による収入	1,119	5	26
無形固定資産の取得による支出	△1,956	△3,128	△2,252
投資有価証券の取得による支出	△21	△20	△22
投資有価証券の売却による収入	3,422	1,191	88
定期預金の純増減額(△は増加)	-	35	2,624
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△211	-	△2,985
その他	△17	△0	853
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,141	△7,066	△9,264
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入金純増減額(△は減少)	△624	△189	△2,915
長期借入れによる収入	2,248	3,242	3,319
長期借入金の返済による支出	△2,887	△2,686	△4,233
社債の発行による収入	1,821	9,940	-
社債の償還による支出	△902	△904	△844
自己株式の売却による収入	1	-	0
自己株式の取得による支出	△3,851	△3,532	△2,028
配当金の支払額	△1,380	△1,414	△1,742
非支配株主への配当金の支払額	△21	△19	△38
自己株式取得のための金銭の信託の増減額(△は増加)	△1,037	1,037	△1,023
その他	△206	△204	△197
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,838	5,267	△9,702
現金及び現金同等物に係る換算差額	△250	78	△245
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,748	5,220	△9,143
現金及び現金同等物の期首残高	13,050	16,799	22,019
現金及び現金同等物の期末残高	16,799	22,019	12,876

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

キッグループのESG

データ編

# グループネットワーク

## 国内ネットワーク

### 株式会社キッツ

#### 本社

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-0111(大代表)



### 販売拠点

#### 北海道支店

北海道営業所  
〒060-0807  
北海道札幌市北区北7条西4-1-2  
KDX札幌ビル  
TEL: (011)708-6666

#### 東北支店

東北営業所  
〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17  
朝日生命仙台一番町ビル  
TEL: (022)224-5335

#### 北関東支店

北関東営業所  
〒331-0812  
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1  
第2坂本ビル  
TEL: (048)651-5260

#### 新潟営業所

〒950-0912  
新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54  
日生南笹口ビル  
TEL: (025)243-3122

### 東京支社

〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング

東京第一営業所  
TEL: (03)6836-1501

東京第二営業所  
TEL: (03)6836-1501

空調計装営業所  
TEL: (03)6836-1502

東京営業推進グループ  
TEL: (03)6836-1503

千葉営業所  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1706

横浜営業所  
〒231-0033  
神奈川県横浜市中区長者町5-85  
三共横浜ビル  
TEL: (045)253-1095

### 中部支社

〒451-0045  
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37  
合人社名駅3ビル

名古屋第一営業所  
TEL: (052)562-1541

名古屋第二営業所  
TEL: (052)562-1541

東海営業所  
〒420-0034  
静岡県静岡市葵区常磐町2-13-1  
住友生命静岡常磐町ビル  
TEL: (054)273-7337

北陸営業所  
〒939-8211  
富山県富山市二口町4-7-14 S・Fビル  
TEL: (076)492-4685

甲信営業所  
〒391-0012  
長野県茅野市金沢5125  
キッツ茅野工場内  
TEL: (0266)71-1441

### 大阪支社

〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル

大阪第一営業所  
TEL: (06)6541-1178

大阪第二営業所  
TEL: (06)6533-1715

建築住設グループ  
TEL: (06)6541-1357

空調計装営業所  
TEL: (06)6533-0350

### 中国支店

広島営業所  
〒730-0032  
広島県広島市中区立町2-27  
NBF広島立町ビル  
TEL: (082)248-5903

岡山営業所  
〒700-0903  
岡山県岡山市北区幸町8-29  
大樹生命岡山ビル  
TEL: (086)226-1607

### 九州支店

九州営業所  
〒812-0007  
福岡県福岡市博多区東比恵3-4-2  
Z・S福岡ビル  
TEL: (092)431-7877

### プロジェクト営業部

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1

プロジェクト第一営業所  
TEL: (043)299-1719

プロジェクト第二営業所  
TEL: (043)299-1719

調節弁営業所  
TEL: (043)299-1773

プロジェクト第三営業所  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)7636-1060

#### 給装営業部

給装第一営業所  
〒190-0022  
東京都立川市錦町2-3-28  
アルプ立川ビル  
TEL: (042)595-9241

北関東事務所  
〒331-0812  
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1  
第2坂本ビル  
TEL: (048)651-5260

横浜事務所  
〒231-0033  
神奈川県横浜市中区長者町5-85  
三共横浜ビル  
TEL: (045)253-1095

関西給装事務所  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)7636-1061

営業支援グループ  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1760

#### 海外事業推進部

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1730

#### プロダクトマネジメントセンター

CLESTEC事業推進部  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1765

#### 生産拠点・研修所

##### 工場

長坂工場  
〒408-8515  
山梨県北杜市長坂町長坂上条2040  
TEL: (0551)20-4100



伊那工場  
〒399-4496  
長野県伊那市東春近7130  
TEL: (0265)78-1111



茅野工場  
〒391-0012  
長野県茅野市金沢5125  
TEL: (0266)82-0170



##### 研修所

キッツ研修センター  
〒408-0041  
山梨県北杜市小淵沢町上笹尾篠原  
3332-1239  
TEL: (0551)36-3971

##### キッツグループ

東洋バルブ株式会社  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6262-1652  
(各種バルブの仕入・販売)

株式会社清水合金製作所  
〒522-0027  
滋賀県彦根市東沼波町928  
TEL: (0749)23-3131  
(水道用バルブの製造・販売)



株式会社キッツエスシーティー  
〒143-0016  
東京都大田区大森北1-5-1  
大森駅東口ビル  
TEL: (03)6404-2171  
(半導体製造装置用配管部材の製造・販売)



三吉バルブ株式会社  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1734  
(建築設備用及び冷凍機用バルブの仕入・販売)

ワイケイブイ株式会社  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1773  
(自動調節弁及びその関連製品の製造・販売・サービス)

株式会社キッツエンジニアリングサービス  
〒275-0024  
千葉県習志野市茜浜1-7-59  
TEL: (047)452-0585  
(バルブのメンテナンスサービス)

株式会社キッツマイクロフィルター  
〒392-0012  
長野県諏訪市四賀2983  
TEL: (0266)52-0002  
(ろ過用機器及びその付属品の製造・販売)



株式会社キッツメタルワークス  
〒391-8555  
長野県茅野市宮川小早川7377  
TEL: (0266)79-3030  
(伸銅品及びその加工品の製造・販売)



北東技研工業株式会社  
〒408-0112  
山梨県北杜市須玉町若神子4601  
TEL: (0551)42-5151  
(金属加工品の製造・販売)



株式会社ホテル紅や  
〒392-8577  
長野県諏訪市湖岸通り2-7-21  
TEL: (0266)57-1111  
(ホテル及びレストランの経営)



## 海外ネットワーク

### 株式会社キッツ 駐在員事務所

#### インド

##### インド駐在員事務所

KITZ Corporation  
(India Liaison Office)  
805 Meadows, Sahar Plaza, Off  
Andheri Kurla Road, Andheri East,  
Mumbai 400 059, India  
TEL: +91-22-40154202

#### U.A.E.

##### ドバイ駐在員事務所

KITZ Corporation  
(Dubai Liaison Office)  
6EA501 Dubai Airport Free Zone,  
P.O. Box 293545, Dubai-U.A.E.  
TEL: +971-4-701-7524

### キッツグループ

#### 韓国

KITZ Corporation of Korea  
10th Floor, Seoul Finance Center,  
136, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul,  
04520, Korea  
TEL: +82-2-6959-2450  
(各種バルブの販売)

Cephas Pipelines Corp.  
20 Hwajeonsandan 6-ro 54 beon-gil,  
Gangseo-gu, Busan, Korea  
TEL: +82-51-290-3001  
(工業用バタフライバルブの製造・販売)



Filcore Co., Ltd.  
38, Mayu-ro 42beon-gil, Siheung-si,  
Gyeonggi-do, #3Ba-211, Shihwa  
Industrial Complex, 15116, Korea  
TEL: +82-31-433-3988  
(浄水器用、アルカリイオン水器具及びトイレ  
ビデ用フィルターの製造・販売)



#### シンガポール

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.  
No.22 Pioneer Crescent, #03-06  
West Park BizCentral, Singapore  
628556  
TEL: +65-6339-0350  
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd.  
No.22 Pioneer Crescent, #03-06  
West Park BizCentral, Singapore  
628556  
TEL: +65-6861-1833  
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

#### タイ

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.  
388 Exchange Tower, 17th Floor,  
Unit 1701-1, Sukhumvit Road,  
Klongtoey Sub-district, Klongtoey  
District, Bangkok 10110, Thailand  
TEL: +66-2-663-4700  
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ (Thailand) Ltd.  
426 Moo17 Bangna-Trad Rd.,  
T.Bangsaothong, A. Bangsaothong,  
Samutprakarn 10570, Thailand  
TEL: +66-2-315-3129~32  
(青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブ  
の製造・販売)



#### マレーシア

KITZ Valve & Actuation (Malaysia) Sdn. Bhd.  
No. 6, Jalan Teknologi Perintis, ½,  
Taman Teknologi Nusajaya, 79200  
Iskandar Puteri, Johor Darul Takzim,  
Malaysia  
TEL: +60-7-553-9731  
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

#### ベトナム

KITZ Valve & Actuation Vietnam Co., Ltd.  
P1-2.37, The Prince Residence,  
No.19-21, Nguyen Van Troi Street,  
Ward12, Phu Nhuan District,  
Ho Chi Minh City, Vietnam  
TEL: +84-28-3995-6933  
(各種バルブの仕入・販売)



## 台湾

**KITZ Corporation of Taiwan**  
5-26 East Street, N.E.P.Z.,  
Kaohsiung, Taiwan, R.O.C.  
TEL: +886-7-361-1236  
(ステンレス鋼・鋳鋼製バルブ及び継手の  
製造・販売)



## 中国

**KITZ Corporation of Kunshan**  
No.15 Taihu South Road Economic  
and Technology Development Zone,  
Kunshan, Jiangsu Province, P.R.  
China, 215300  
TEL: +86-512-5763-8600  
(ステンレス鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ Corporation of Jiangsu Kunshan**  
No.188, Zhongyang Road, B Zone,  
Kunshan Comprehensive Free Trade  
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,  
215300  
TEL: +86-512-5771-6078  
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ Corporation of Shanghai**  
Room 1701-1704, International  
Corporate City,  
No.3000 North ZhongShan Rd.,  
PuTuo District, Shanghai, P.R. China,  
200063  
TEL: +86-21-6439-1249  
(各種バルブの生産・仕入・販売)



常熟分公司

**KITZ Corporation of Lianyungang**  
No.16 Yun Yang Road, Lianyungang  
Economic and Technical Development  
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,  
222047  
TEL: +86-518-8236-6061  
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ SCT Corporation of Kunshan**  
8-3, No.3 Road, Export Processing A  
Zone, Kunshan, Jiangsu, P.R. China,  
215300  
TEL: +86-512-5735-0700  
(半導体製造装置用配管部材の製造・販売)



## 香港

**KITZ Hong Kong Company Limited**  
Unit E, 33 Floor, Monterey Plaza,  
15 Chong Yip Street, Kwun Tong,  
Kowloon, Hong Kong  
TEL: +852-2728-2199  
(各種バルブの仕入・販売)

## インド

**Micro Pneumatics Pvt. Ltd.**  
Plot No.133-134, Vasai Municipal  
Industrial Area, Umela Phata, Papyd,  
Vasai Road (West) - 401 207, Dist.  
Palghar, Maharashtra, India  
TEL: +91-250-2320458  
(工業(薬品、食品、化学)用自動ボールバ  
ルブ及びバタフライバルブの製造・販売)



## アメリカ

**KITZ Corporation of America**  
10750 Corporate Drive, Stafford,  
Texas 77477, U.S.A.  
TEL: +1-281-491-7333  
(各種バルブの仕入・販売)

**KITZ SCT America Corporation**  
5201 Great America Parkway, Suite  
238, Santa Clara, California 95054,  
U.S.A.  
TEL: +1-408-747-5546  
(半導体製造装置用配管部材の仕入・販売)

## ブラジル

**Metalúrgica Golden Art's Ltda.**  
Rua Getúlio Vargas 496, Bairro  
Renovação, Veranópolis, Rio Grande  
do Sul, Brazil, 95330-000  
TEL: +55-54-3441-8900  
(工業用ボールバルブの製造・販売)



## スペイン

**KITZ Corporation of Europe, S.A.**  
Ramón Viñas, 8 08930 Sant Adrià de  
Besòs, Barcelona, Spain  
TEL: +34-93-462-14-08  
(鋳鋼製・ステンレス鋼製ボールバルブの  
製造・販売)



## ドイツ

**KITZ Europe GmbH**  
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,  
Germany  
TEL: +49-6187-928-100  
(欧州全域のマーケティング・販売)

**Perrin GmbH**  
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,  
Germany  
TEL: +49-6187-928-0  
(メタルシートボールバルブ等の製造・販売)



# 会社概要 / 株式情報

## 会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社 <b>キッツ</b>
英文商号	<b>KITZ CORPORATION</b>
本社	〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1(幕張新都心) TEL: (043) 299-0111(大代表)
URL	<a href="https://www.kitz.co.jp/">https://www.kitz.co.jp/</a>
設立	1951年1月26日
資本金	21,207,084,670円
決算期	3月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:6498)
社員数	1,290名(単体)
事業内容	バルブ及びその他の流体制御用機器並びにその付属品の製造・販売
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

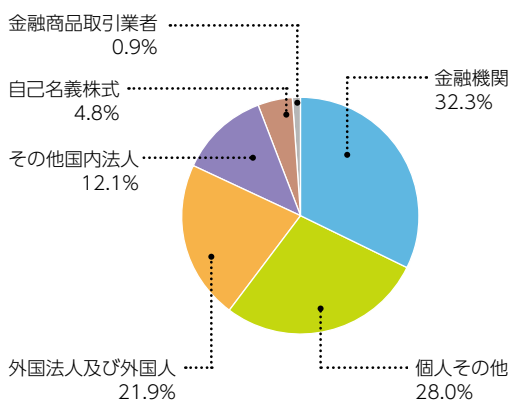
## 株式情報 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	95,571,302 株 (注)左記の発行済株式の総数には、当社が2019年3月31日に保有する自己株式4,825,209株を含めておりません。
株主数	10,309名 (注)株主数には当社を含めております。
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告掲載方法	電子公告 公告掲載URL( <a href="https://www.kitz.co.jp/">https://www.kitz.co.jp/</a> ) ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株

## 大株主(上位10位)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	9,053	9.47
北沢会持株会	4,414	4.62
日本生命保険相互会社	4,303	4.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,946	4.13
住友生命保険相互会社	3,444	3.60
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.57
キッツ取引先持株会	2,989	3.13
株式会社三井住友銀行	2,553	2.67
GOVERNMENT OF NORWAY	2,347	2.46
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	2,328	2.44

## 所有者別分布



## 株価情報

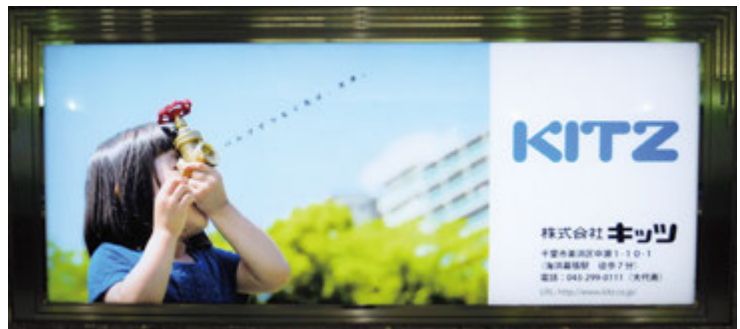


## 東京ドーム、東京駅等に広告看板を設置

知名度向上に向けた取り組みの一環として、東京ドームに企業広告看板を設置しています。その他、JR東京駅、JR海浜幕張駅、JR幕張本郷駅など、首都圏を中心に企業PRを展開しています。



東京ドームレフトポール上段壁面



JR東京駅構内

子どもがバルブをのぞき、「明るい未来」を見ているイメージを表現。バルブからは、「バルブでつなぐ先は、未来。」のキャッチコピーが青空に向かって伸びています。明るい未来のために欠かせないものとして「バルブ」があり、「キッツは社会に必要な不可欠な企業でありたい」というメッセージを込めています。

## キッツウェブサイトのご案内



<https://www.kitz.co.jp/>



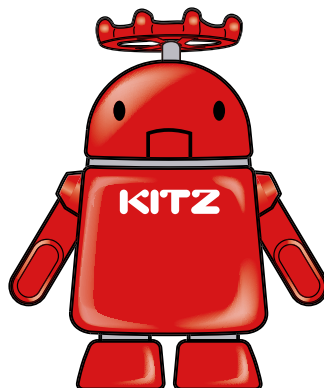
<https://www.kitz.co.jp/sp/>

メインメニューを大きなボタンで表示することによりスマートフォンで閲覧しやすくなり、より便利にご利用いただけます。



## 企業PRキャラクターのご紹介

企業イメージ向上のために作られた、「菊ハンドル」(P32 Focusをご覧ください)をモチーフとしたキャラクター「きくまる」。これまで、展示会のブースや販売促進ツール等で使用してきましたが、今後、企業PRキャラクターとして、各種プロモーションの場で積極的に活用してまいります。



きくまるプロフィール  
生年月日:2007年10月3日  
性別:なし  
性格:誠実で正直者。行動的でチャレンジ精神にあふれている。時々、おちょこちよいな一面も。

キッツの優秀な営業マンとして、日本各地・世界各国を忙しく飛び回る毎日です。

**KITZ**